

2006年1月10日

社団法人全国高等学校PTA連合会 株式会社リクルート「キャリアガイダンス」合同調査

**第2回
「高校生と保護者の進路に関する意識調査」
(2005)
報告書Part1**

雇用形態の変容と労働観の変化。無業者増加問題をはじめ、若者への職業観育成指導はいま日本が取り組むべき大きな課題となっています。行政、学校教育はむろんですが、若者にとってもっとも身近な大人である「保護者」ができることはなんのでしょうか。進路に関する親と子のコミュニケーションのあり方と、大人ができる高校生のよりよい進路選択へのサポートを探りたい——。社団法人全国高等学校PTA連合会と株式会社リクルートは、全国の高校生をもつ保護者とその子どもに対してコミュニケーションの実態とさまざまな進路観について問うアンケート調査を、2003年に続いて実施しました。その分析結果第一弾をまとめましたので、ここにご報告申し上げます。

社団法人全国高等学校PTA連合会

会長 藤井久丈

進路対策委員会委員長 羽鳥 亘

株式会社リクルート

学びディビジョンカンパニー

進学情報ディビジョン長 岩崎 隆

調査結果の概要

■「進路を考えるときの気持ち」は「不安」が増加。「楽しい」は減少

進路を考えるとどんな気持ちになるかを高校生に聞いたところ、「自分がどうなってしまうのか不安になる」という生徒が47%と半数近く。前回調査より若干増加し、「自分の可能性が広がるようで、楽しい」は26%で前回から10ポイント近い減少となった。保護者とよく話している高校生ほど「楽しい」割合が大きくなっている(p.29)。

■「働くことへの気付き」は高校生の71%があると回答。前回43%から大幅増

将来働くことについて気付きがあるという高校生は7割を超え、対象学年が3年から2年へと下がったにもかかわらず激増。とくに増加が著しいのは、普通科と大学・短大進学希望者だった。また保護者と話している高校生ほど気付きを感じている傾向が見られた(p.31)。

■「働く気付き」の中身は、1位「就業不安」、2位「収入不安」、3位「人間関係」

「働くことについてどんなことが気付きか」については、「なりたい職業に就くことができるだろうか」が70%、続いて「十分な収入が得られるだろうか」「職場の人間関係がうまくいだろうか」となった。就業不安は大学・短大進学希望者でもっとも高く、また、保護者と話している高校生ほど高くなっている(p.32)。

■「未来社会は好ましくない」と思う高校生は66%、保護者は72%

これからの社会に対する考えを親子それぞれに聞いたところ、どちらも前回より「好ましくない」との回答が増加し、「就職難」「少子化」「実力主義」などがその理由にあげられた(p.35,36)。

■ニートの認知率は高校生7割、保護者8割

「自分はニートにならないと思う」「ニートになったら保護者がかわいそう」「ニートになるのは恥ずかしい」といった否定的な意見は、親と話している高校生ほど高くなっている(p.27,28)。

■「進路について子どもにアドバイスするのが困難」と思う保護者は3分の2

「生徒の進路選択へのアドバイスを難しいと感じる」保護者は67%。その理由の1位は「社会がどのようになっていくのか予測できないから」で55%。次いで「入試制度をはじめ最新の進路情報を知らないから」となった(p.37)。

■ コンテンツ ■

調査概要	p4
------	----

I. 親子コミュニケーションの実態

1. 進路について話す頻度	高校生の71%、保護者の89%が「話している」と回答	p5
2. 進路について話す内容	59%が「どんな職業に就きたいか」を話題に	p6
3. 保護者がよく使う言葉	「自分の好きなことをしなさい」が28%で最多	p7
4. 希望進路の保護者認知度	高校生の79%、保護者の90%が「知っている」と回答	p9
5. 進路の悩みや不安の保護者認知度	高校生の50%、保護者の69%が「知っている」と回答	p10
6. 保護者からのアドバイスの状況	高校生の62%がアドバイスを希望	p11
7. 進路の相談相手	身近で話しやすい「母親」が76%で最多	p12
8. 進路選択で影響を受けている人・もの	上位は「母親」33%と「父親」26%	p13
9. 保護者の仕事についての認知状況	「仕事内容」を知っている高校生は65%	p14
10. 保護者の仕事についての会話状況	保護者の71%が仕事内容、楽しさや大変さを子どもに話す	p15
11. 働く意味についての会話状況	話し合ったことがある高校生は17%	p16

II. 進学に関する考えと情報

1. 進学についての価値観…①高校生	92%が「やりたいことができる学校」を希望	p17
2. 進学についての価値観…②保護者	「個性や能力」や「やりたいこと」を重視	p18
3. 重要だと思う進学情報	高校生は「学部・学科の内容」、保護者は「現在の入試制度の仕組み」が最多	p19
4. 保護者の進学情報の入手方法	「担任」が44%と最多。次は「高校での進路行事」で30%	p20

III. 働くことに関する考え

1. 高校生が希望する職業	1位は「公務員」9%。男子では「公務員」、女子では「保育士・幼稚園教諭」	p21
2. 高校生が希望しない職業	1位は「フリーター」22%	p23
3. 保護者が子どもに望む職業	1位は「公務員」30%	p24
4. フリーターに関する考え…①高校生	60%が「家族を養っていけない」と回答	p25
5. フリーターに関する考え…②保護者	90%が「就職するように最後まで努力させる」と回答	p26

IV. ニートに関する考え

1. ニートに関する考え…①高校生	「自分はニートにならない」41%、「なるかもしれない」4%	p27
2. ニートに関する考え…②保護者	80%が「自分の子どもはニートにならない」と回答	p28

V. 進路にまつわる不安と困難

1. 進路を考える時の気持ち	前回調査より「不安」が増加し47%。「楽しい」は減少し26%	p29
2. 働くことへの気付き…①高校生	気付きの有無 71%が「気付きがある」と回答。前回から大幅に増加	p31
3. 働くことへの気付き…②高校生	気付きの中身 70%が「なりたい職業に就くことができるか」を心配	p32
4. 働くことへの気付き…③保護者	61%が「気付きがある」と回答	p34
5. 未来社会への認識…①高校生	「好ましくない」が前回調査から増加して66%に	p35
6. 未来社会への認識…②保護者	「好ましくない」が前回調査から増加して72%に	p36
7. 保護者がアドバイスすることの困難	保護者の67%が「アドバイスが困難」と回答	p37

VI. 学校への期待

1. 学校と家庭の役割に関する認識	保護者の79%が「進路の相談にのる役目は家庭と学校同等」と回答	p38
2. 進路指導への要望	高校生の44%、保護者の49%が「進路に関する情報提供」と回答	p39

【調査概要】

- 調査実施者：社団法人全国高等学校PTA連合会／株式会社リクルート
- 調査対象：全国の高校2年生をもつ保護者とその子ども2620組
 - ①全国高等学校PTA連合会より依頼した10道県の公立高校各3校第2学年2クラスの高校生と保護者
 - ②編集部より直接依頼した東京都の私立高校2校第2学年全クラスの高校生と保護者
- 調査期間：平成17年9月26日～10月7日
- 調査方法：①高校生：ホームルームにてアンケートに回答
②保護者：高校生から保護者へアンケートを手渡し
③学級担任が高校生と保護者分をとりまとめ、その後学校責任者が学校分として返送
- 回収数・サンプル数：高校生2478（男子1282・女子1154）
保護者2181（父親306・母親1813・その他22）

【回答者プロフィール】

■高校生

- 性別：男子51.7%・女子46.6%（無回答1.7%）
- 高校タイプ：普通科58.7%・専門学科32.2%・総合学科6.6%（無回答2.5%）
- 高校卒業後の希望進路：大学・短大進学58.0%・専門学校進学19.0%・就職19.2%・フリーター0.8%・留学0.6%・その他1.2%（無回答1.2%）
- 地域分布：北海道8.4%・青森9.0%・群馬9.0%・東京8.8%・山梨9.0%・福井9.0%・愛知9.4%・奈良8.9%・岡山9.6%・佐賀9.4%・大分9.6%

■保護者

- 続柄：父親14.0%・母親83.1%・その他1.0%（無回答1.8%）
- 地域分布：北海道8.4%・青森9.3%・群馬9.3%・東京7.7%・山梨9.2%・福井9.1%・愛知9.9%・奈良8.6%・岡山8.9%・佐賀10.1%・大分9.5%

<注>

※レポート中で引用している前回調査は、平成15年7月に全国の高校3年生をもつ保護者とその子ども2000組を対象に実施したものです

※フリーコメント末尾のカッコ内の内容は下記のとおりです

高校生コメント→（都道府県・性別、希望進路）

保護者コメント→（都道府県・続柄、子どもの性別）

I. 親子コミュニケーションの実態

1. 進路について話す頻度

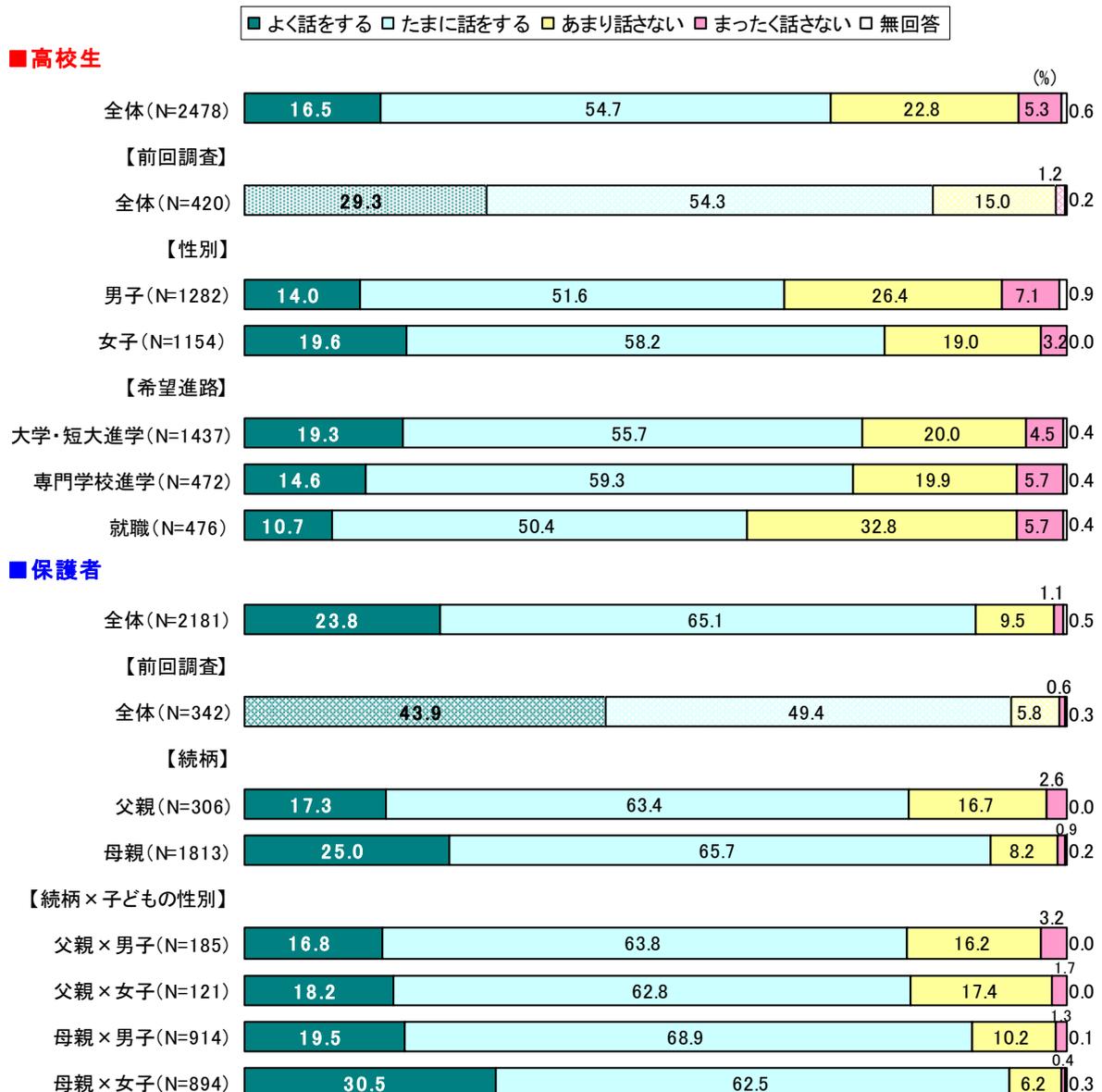
- 高校生の71%、保護者の89%が「話している」と回答
- 最も話していないのは“父親と息子”

今回の調査対象である高校2年生は、高卒後の進路について保護者とどれくらい話しているだろうか。まず生徒の回答を見ると、「よく・たまに話をする」という回答が71%。男女別では女子のほうが、希望進路別では大短希望者が最もよく話していると回答した。

一方の保護者の回答では「よく・たまに話をする」が89%で、生徒よりもよく話しているという認識だ。親子の組み合わせで見ると、最も話しているのは母親と娘、最も話をしていないのは父親と息子だった。

また、前回調査に比べると生徒・保護者ともに話をする割合が減っているが、前は高校3年生を対象に実施しており、対象学年の違いによる影響が考えられる。

Q. 進路について生徒と保護者は話しているか



2. 進路について話す内容

- 59%が「どんな職業に就きたいか」を話題に
- 就きたい職業や夢など、将来的な話は特に女子が活発

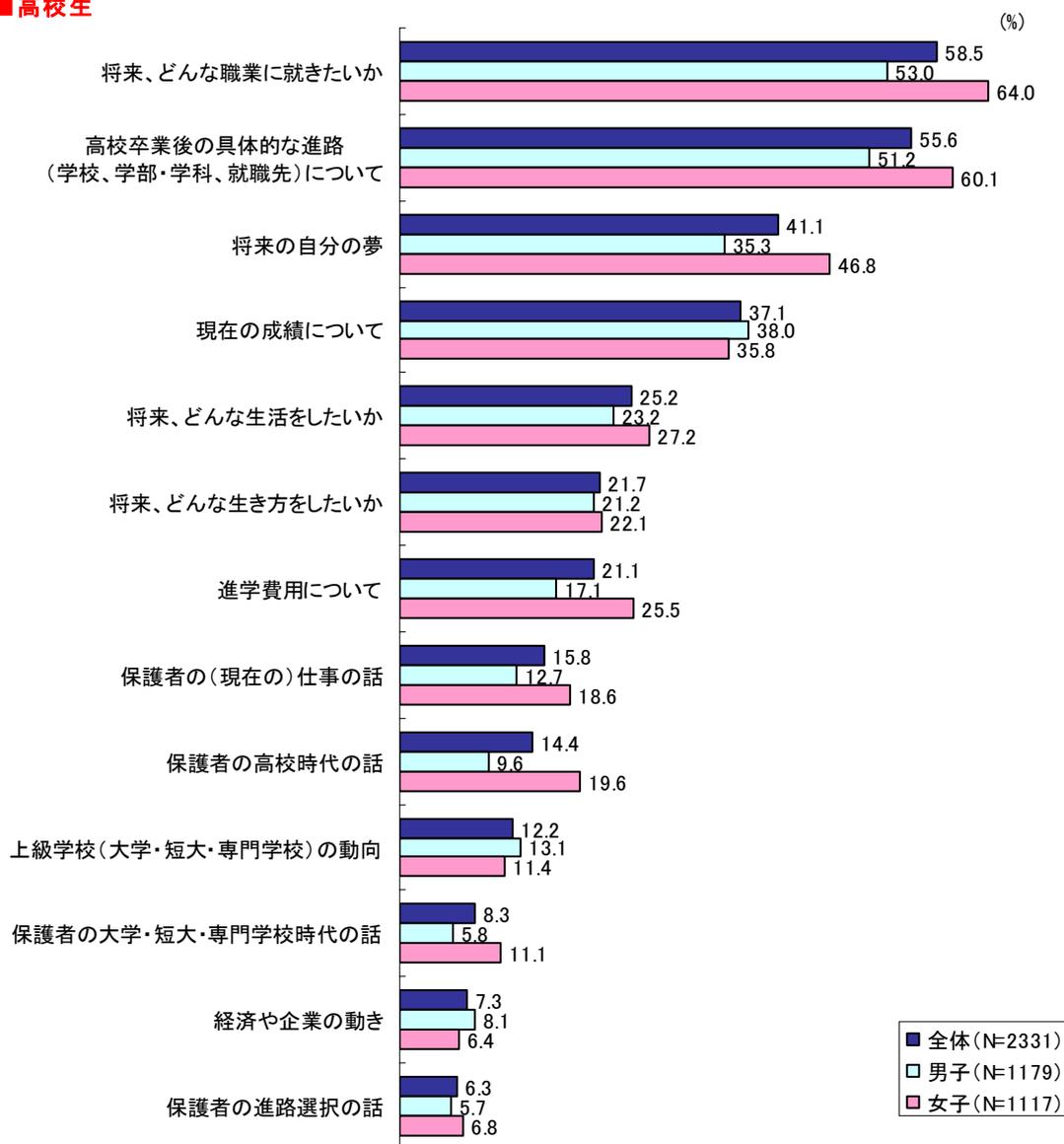
生徒と保護者が進路について話している内容を見てみると、最も多かったのは「将来、どんな職業に就きたいか」59%。次に「高校卒業後の具体的な進路」56%、「将来の自分の夢」41%と続く。高2の秋という時期も関係するのかわ、現在の成績や進学費用など直近の課題ばかりでなく、「将来、どんな職業に就きたいか」や「将来の自分の夢」など将来的なことに关する会話の多さが目立つ。

男女別に見ると、「現在の成績」「上級学校の動向」「経済や企業の動き」以外は全て女子のほうがよく話している。特に「将来、どんな職業に就きたいか」「将来の自分の夢」では男女で10ポイント以上の開きがあった。

また希望進路別では、「将来の自分の夢」が専門学校進学希望者は52%と、全体より10ポイント以上多いことが目立った。

Q. 進路について保護者とどんな話をしているか(複数回答)

■ 高校生



3. 保護者がよく使う言葉

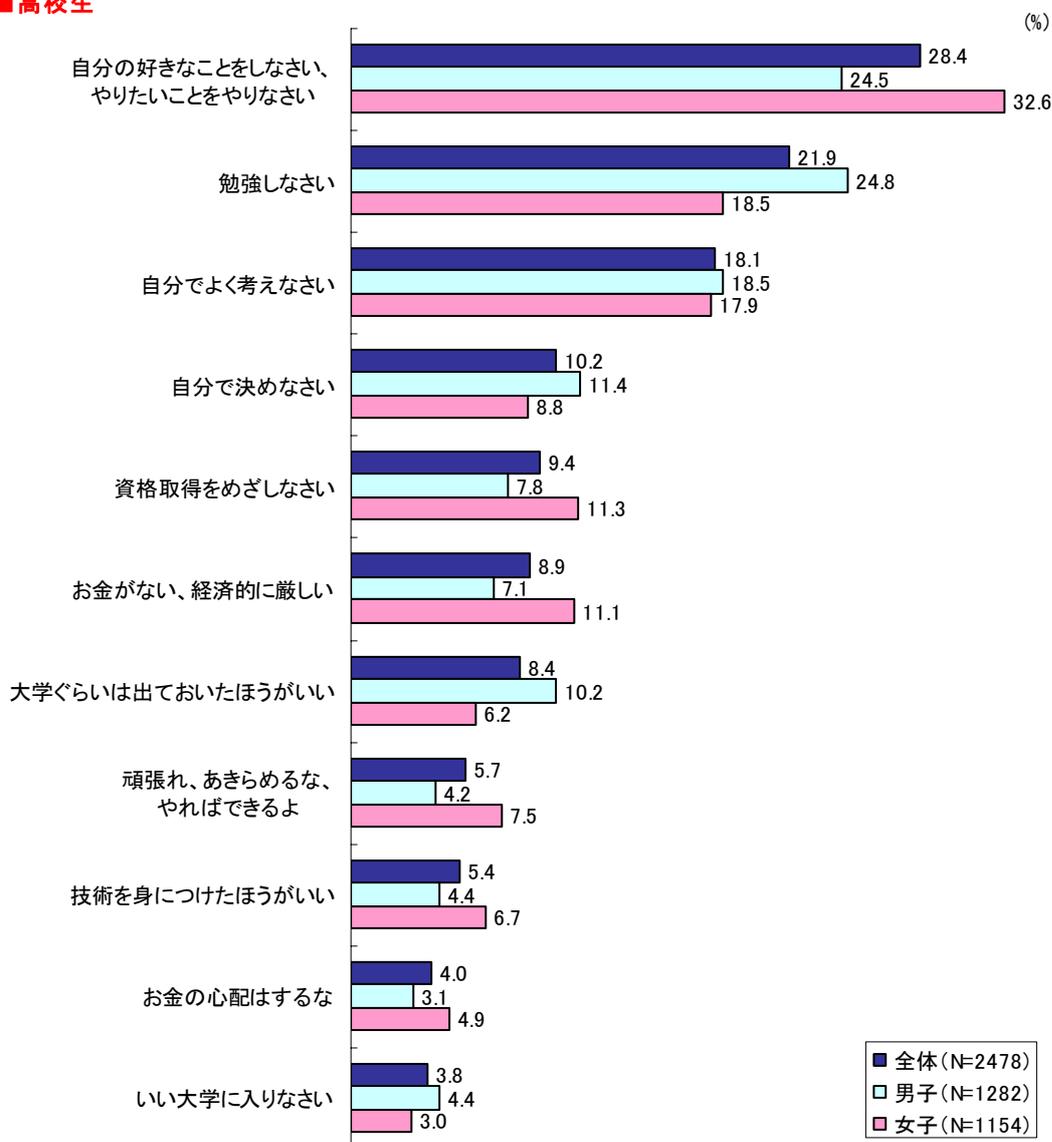
- 「自分の好きなことをしなさい、やりたいことをやりなさい」が28%で最多
- そう言われて「やりたいことがないのに焦る」という反応も

進路の話をする時に保護者がよく使う言葉を生徒にあげてもらった。最も多かったのは「自分の好きなことをしなさい、やりたいことをやりなさい」で 28%。次に「勉強しなさい」の 22%、「自分でよく考えなさい」の 18%、「自分で決めなさい」の 10%が続く。

これらの言葉をかけられた時に生徒はどう感じているかを書いてもらったところ、「自分の好きなことをしなさい」に対しては「ありがたい」「頑張ろうという気になる」など前向きなコメントが多かった(次頁参照)。しかし、やりたいことがわからない生徒からは「焦る」との声もあがっており、同じ言葉でも、本人も保護者も生徒のやりたいことがわかっている場合、わからない場合で受け止め方は異なっている。また「勉強しなさい」に対しては、「やる気がなくなる」「腹が立つ」など反発するようなコメントが多い。

Q. 進路の話をするときに保護者はどんな言葉をよく使うか(複数回答)

■ 高校生



>>保護者の言葉をどう感じるか

■「自分の好きなことをしなさい、やりたいことをやりなさい」

- ありがたいなあと思う。自分のしたいことに責任はついてくるけど、後悔しなくてよい(奈良・女子、専門)
- 自分の意見を受け入れてくれる態度なので、将来のことが話しやすい(大分・女子、大短)
- 頑張ろうという気になる。のびのびと勉強できる(大分・男子、大短)
- やりたいことが何もないので内心焦る(東京・女子、大短)

■「勉強しなさい」

- そればかりで嫌になる(奈良・女子、大短)
- やる気がなくなる。そんなことはわかってる。うるさい(東京・女子、大短)
- 自分なりに頑張ってるのに、何回も言われると腹が立つ(福井・男子、就職)

■「自分でよく考えなさい」

- 自分の人生を決めるのは自分しかいないので、しっかり考えようと思う(佐賀・男子、大短)
- 自分の意見を尊重してくれているのだと思う。アドバイスしてくれたり一緒に考えてくれたりもするので、突き放されたようには感じない(大分・女子、就職)
- 考えても、どこに行きたいのか、よくわからなくなっているのを実感する(愛知・男子、就職)
- 無責任な親、と思う(佐賀・男子、専門)

■「自分で決めなさい」

- 自分のしたいことに関してすべて認めてくれているんだと感じる(山梨・男子、大短)
- 自分がしっかりしないといけない、と思う(奈良・女子、就職)
- 別に何も。誰も私のことなんて気にしてないらしいです(東京・女子、大短)

■「資格取得をめざしなさい」

- できる限り取得したいと思う(奈良・男子、専門)
- もっと勉強しなくちゃ(青森・女子、専門)
- 思ったとおりに取得できないよ(群馬・男子、就職)

■「お金がない、経済的に厳しい」

- いつも金・金・金で、ウンザリする(群馬・男子、大短)
- 今の夢を諦めざるを得ないのかなあ……などと考えてしまう(山梨・女子、専門)
- そんなマイナスなことばかり言わなくても、自分で何とかするよ……(北海道・男子、専門)

■「大学ぐらいは出ておいたほうがいい」

- ああ、そうだなあと思う(東京・女子、大短)
- 何か焦ります(愛知・男子、大短)
- たとえ大学へ行っても、その先どうすればいいか不安(青森・男子、大短)
- マジうるせーし、自分のしたいことをやらせる(福井・男子、大短)

■「頑張り、あきらめるな、やればできるよ」

- 「あんたには無理」とか言われると諦めたくなるけど、親に「頑張りなさい」と言われると本当に頑張ろうと思う(愛知・女子、大短)
- 落ち込んでいる時に言ってくれるから励みになるし、自信が持てる感じがする(奈良・女子、大短)
- 応援してくれるのはありがたいけど、何度も言われるとカンに触る(佐賀・女子、専門)

■「技術を身につけたほうがいい」

- 確かにそうだろうと感じる(佐賀・女子、大短)
- それはわかっているのだが、自分に何が合っていて何がしたいのかわからない(群馬・男子、フリーター)

■「お金の心配はするな」

- とてもありがたい言葉だと感じる(佐賀・女子、大短)
- 安心して大学受験に取り組もう、と思う(愛知・男子、大短)
- 本当にお金があるか疑う(愛知・男子、大短)

■「いい大学に入りなさい」

- まあ、なるべくそうしようかなと(北海道・男子、大短)
- ちょっと焦る(奈良・男子、大短)
- 自分はたいした大学を出ていないくせに、子どもに高望みし過ぎだと思い、イライラする(大分・女子、大短)

4. 希望進路の保護者認知度

- 高校生の79%、保護者の90%が「知っている」と回答
- 話をする親子としない親子で差は歴然

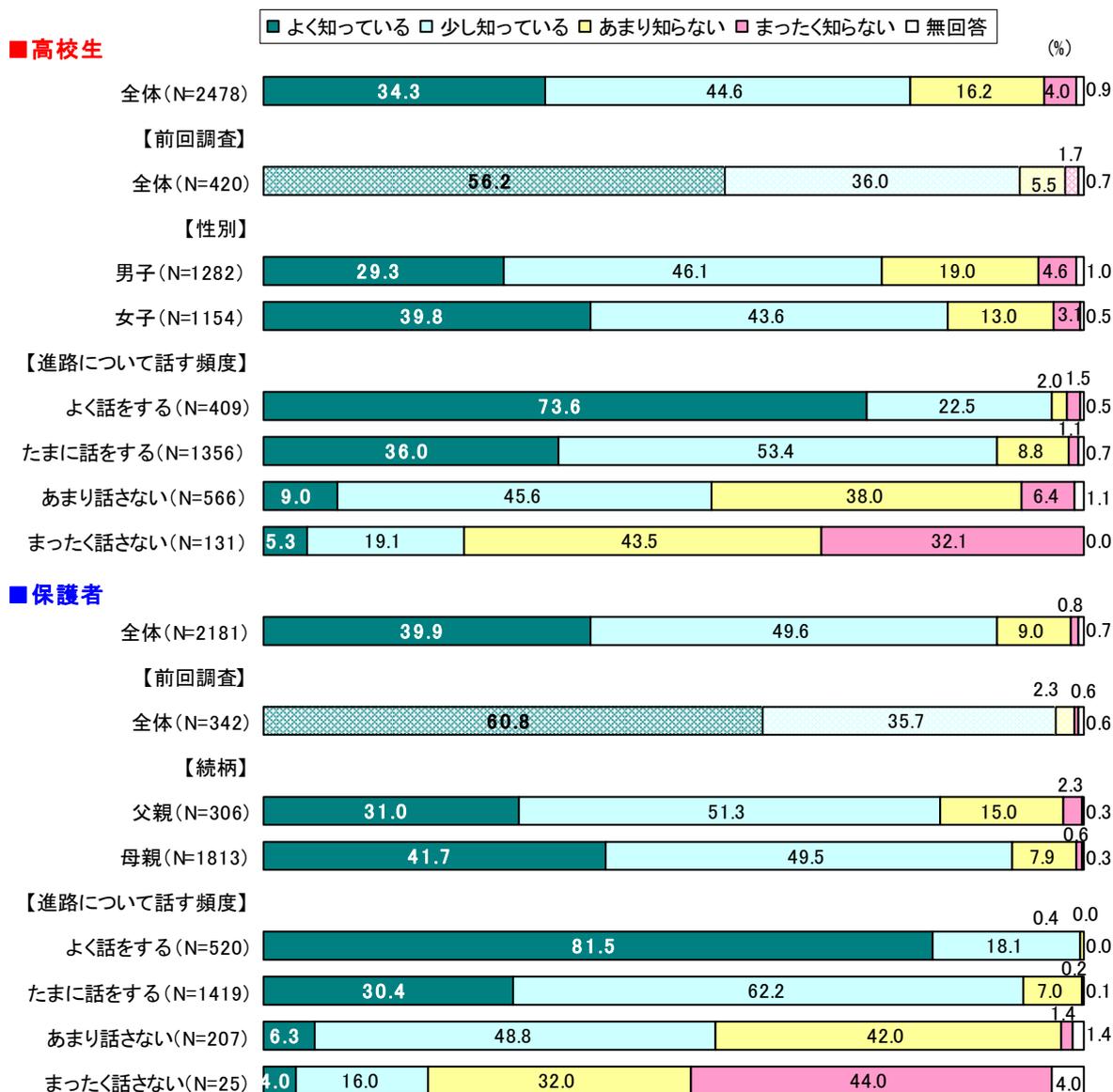
生徒の希望する進路について、どれぐらいの保護者が知っているだろうか。まず生徒に質問してみると、「よく知っている」は34%で、「少し知っている」と合わせると79%だった。男女別では、女子のほうが「知っている」という回答が多かった。

一方の保護者は、子どもの希望進路を「よく・少し知っている」が90%で、生徒よりやや多い。また、父親より母親のほうが「知っている」が多かった。

進路について親子で話す頻度別では生徒と保護者のどちらも、「よく・少し知っている」が「よく話をする」人は9割超なのに対し、「まったく話さない」人は2割程度と大きな差が見られた。

また、前回調査に比べ、生徒も保護者も「知っている」の割合が小さくなっているが、調査対象が高3から高2になったことが大きな要因と考えられる。

Q. 生徒の進路希望を保護者は知っているか



5. 進路の悩みや不安の保護者認知度

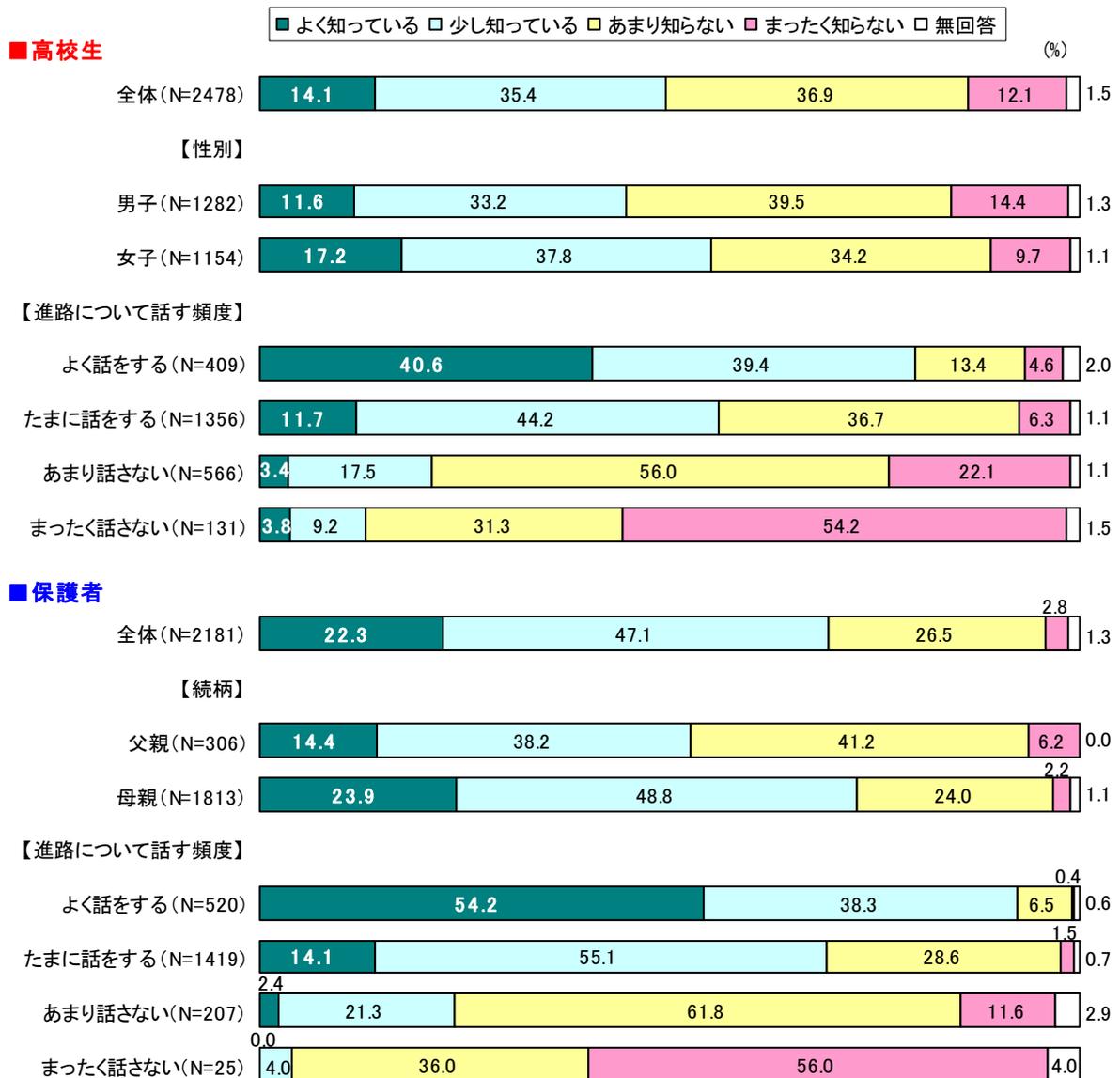
- 高校生の50%、保護者の69%が「知っている」と回答
- 話をしている親子は、悩みや不安も共有

進路選択に関する生徒の悩みや不安について、保護者が知っているかどうかを親子それぞれに聞いた。まず高校生の回答では、「よく・少し知っている」が50%、「あまり・まったく知らない」が49%とほぼ半々という結果だった。男女別では、女子のほうが「知っている」という回答が多く、男子では「知らない」が「知っている」を上回った。

保護者では69%が「よく・少し知っている」と回答しており、生徒よりも知っていると認識する人が多かった。父母間で差があり、「知っている」という母親は73%なのに対して、父親は53%にとどまっている。

また、生徒と保護者の両方で、進路について親子で話す頻度別の数値に大きな差が見られた。「よく話をする」という生徒の80%、保護者の93%が「知っている」と回答しており、話をしている親子ほど悩みや不安も共有しているようだ。

Q. 生徒の進路選択の悩みや不安を保護者は知っているか



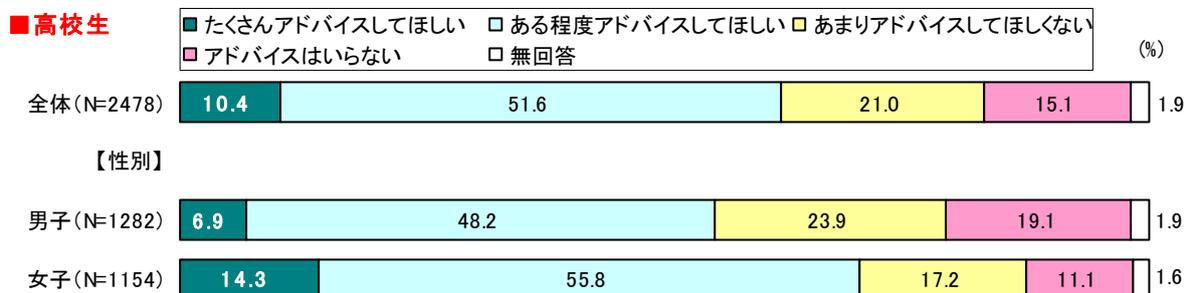
6. 保護者からのアドバイスの状況

- 高校生の62%がアドバイスを希望、考えを押し付ける親には拒否反応
- 子どもの悩みや不安にアドバイスしている親は75%

進路選択の際、保護者にアドバイスしてほしいかどうかを生徒に聞いてみると、「たくさん・ある程度アドバイスしてほしい」は62%となり、「あまりアドバイスしてほしくない・アドバイスはいらない」の36%を上回った。理由を聞くと、アドバイスがほしい人は「先輩として多くの意見を聞きたい」「安心したり考えがまとまったりする」など、決めるのは自分自身だと思っても助けを求めていることがわかる。一方のアドバイスしてほしくない人には、「余計に不安になる」「考えを押し付けられる」など保護者と距離を置きたいと思っている生徒のほか、「自分のことは自分でやってみたい」といった自立意識の強い生徒もいるようだ。

また、保護者に対しては、進路に関する生徒の悩みや不安にアドバイスをしているかどうかを聞いた。「よく・少ししている」は75%で、父親より母親のほうがアドバイスしていると回答した。

Q. 進路選択について保護者にアドバイスしてほしいか



>> そう思う理由

■たくさんアドバイスしてほしい人

- 高校時代を過ごしてきた先輩として多くの意見を聞き、頭に入れておいたほうがためになると思う(群馬・男子、大短)
- 失敗しないためにも、経験豊富な人の話を聞いておきたい(佐賀・女子、専門)
- 自分の進路選択に広がりがあるから(奈良・女子、大短)
- 世の中のことをまだわかっていないと思うので、人生の先輩としてアドバイスをもらいたい(山梨・女子、留学)

■ある程度アドバイスしてほしい人

- アドバイスをもらうと、安心したり、考えがまとまったりする(東京・女子、大短)
- 落ち込んでいる時は助けてほしいから(大分・男子、専門)
- 自分の意思を第一に考えながら、困ったことは親にアドバイスしてほしい(北海道・女子、大短)
- 自分の考えと違うと混乱してしまうかもしれないけど、違った考え方も知ったほうが良いと思う(北海道・女子、専門)
- あまり言われすぎると不安になる。でも、自分だけではわからないことも多い(山梨・女子、大短)
- あまり多いと親が決めてしまいそうなので、少しのアドバイスで十分だと思う(福井・男子、就職)

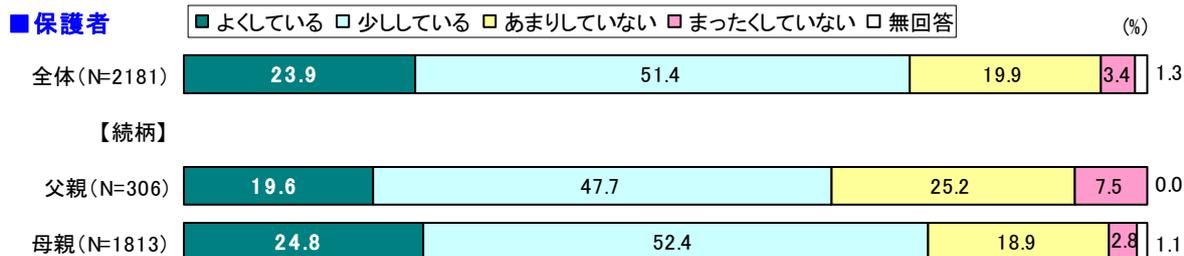
■あまりアドバイスしてほしくない人

- 親の話を聞くと余計に不安になるから(群馬・女子、大短)
- 自分のやりたいことじゃなく、親がやってほしいと思っていることを押し付けられるから(東京・女子、専門)
- あまり状況を知らずに、昔の考え方で話を進めるから(群馬・男子、大短)
- 結局は、勉強しろとしか言われぬ(群馬・男子、大短)
- よく批判されるので、話したくない。遠回しに親の言うとおりにさせようとする(山梨・女子、大短)
- ただただ何度も言われると、嫌になる(大分・女子、就職)
- 自分のことは自分でやってみたい(群馬・男子、大短)
- 自分で決めたほうが後悔しないと思う(山梨・女子、大短)

■アドバイスはいらない人

- あまりアドバイスをもらい過ぎると、進路に対して不安を感じるようになるから(東京・男子、大短)
- アドバイスの他に余計なことを言われそうだから、いらぬ(山梨・男子、就職)
- 自分で決めないと、長続きしないから(大分・男子、専門)
- 自分が本当にやりたいことなら、人から言われなくても努力すると思う。自分で解決するしかない(青森・女子、専門)

Q. 進路に関する生徒の悩みや不安にアドバイスしているか



7. 進路の相談相手

■身近で話しやすい「母親」が76%で最多

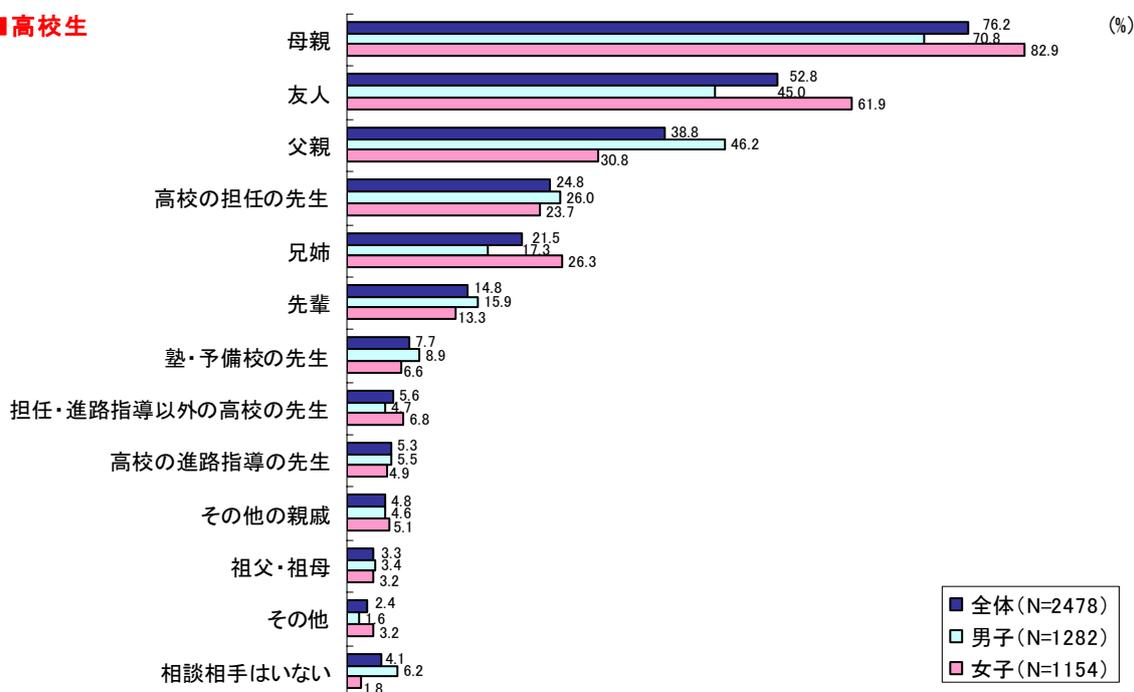
■「父親」は3位で39%。男子では46%だが、女子では31%

進路を考える時、生徒は誰と相談しているだろうか。聞いてみると、76%が「母親」を挙げ、これに「友人」53%、「父親」39%、「高校の担任の先生」25%が続いた。男女とも最多は「母親」。そして男子では2番目に「父親」46%が多く、「友人」45%をわずかに上回った。しかし女子で「父親」を挙げたのは31%で、「母親」の83%との差が際立つ。

また、一番の相談相手を1人選んでもらったところ、上位はやはり「母親」「友人」「父親」という順に並んだ。そう思う理由も聞くと、「母親」については「いつも一緒にいるし、自分のことを一番わかってくれる」「一番話しやすい」など身近さや相談しやすさをあげる人が多かった。「父親」については「たくさんのことを知っている」「一番仕事の経験がある」など豊富な知識や経験をあげる声が目立った。

Q. 生徒は進路について誰と相談しているか(複数回答)

■高校生



>>一番の相談相手と、そう思う理由

■**母親**：いつも一緒にいるし、自分のことを一番わかってくれるから（愛知・女子、大短）／一番話しやすいし、自分のことを理解して応援してくれるから（福井・女子、就職）／話を聞いてくれるから。父はすぐ勉強しろと怒る（岡山・女子、大短）／いろいろな情報を与えてくれ、お互い本音で何でも話せるから（山梨・女子、大短）／自分の意見を聞いてくれ、何よりも自分の好きなようにしなさいと言ってくれたから（佐賀・男子、大短）

■**友人**：友達なら気軽に話せるから（愛知・男子、専門）／解決にはならないけど、スッキリして、頑張ってみようという気になる（奈良・女子、大短）／同じような夢の友達とは意見・情報交換ができる（愛知・女子、留学）

■**父親**：いろいろなことを経験して、たくさんを知っているから（北海道・男子、大短）／家族でも一番仕事の経験がある人だし、同じ男なので（北海道・男子、就職）／一番納得のいく考えをくれるから（青森・女子、大短）

■**高校の担任の先生**：進路に関する知識があるから（大分・男子、大短）／詳しく教えてくれるし、頼みやすい（奈良・男子、専門）

■**兄弟**：姉は歳が近いので何でも話せるし、数年前に自分も悩んだことだからいろいろ教えてくれる（山梨・女子、専門）／リアルな情報を持っているから（北海道・女子、大短）

■**先輩**：何がいか具体的に教えてくれるし、現役の人のほうが聞きたい気持ちになる（奈良・女子、大短）／自分と似た悩みを持っていたのが、ごく最近だから（青森・男子、大短）

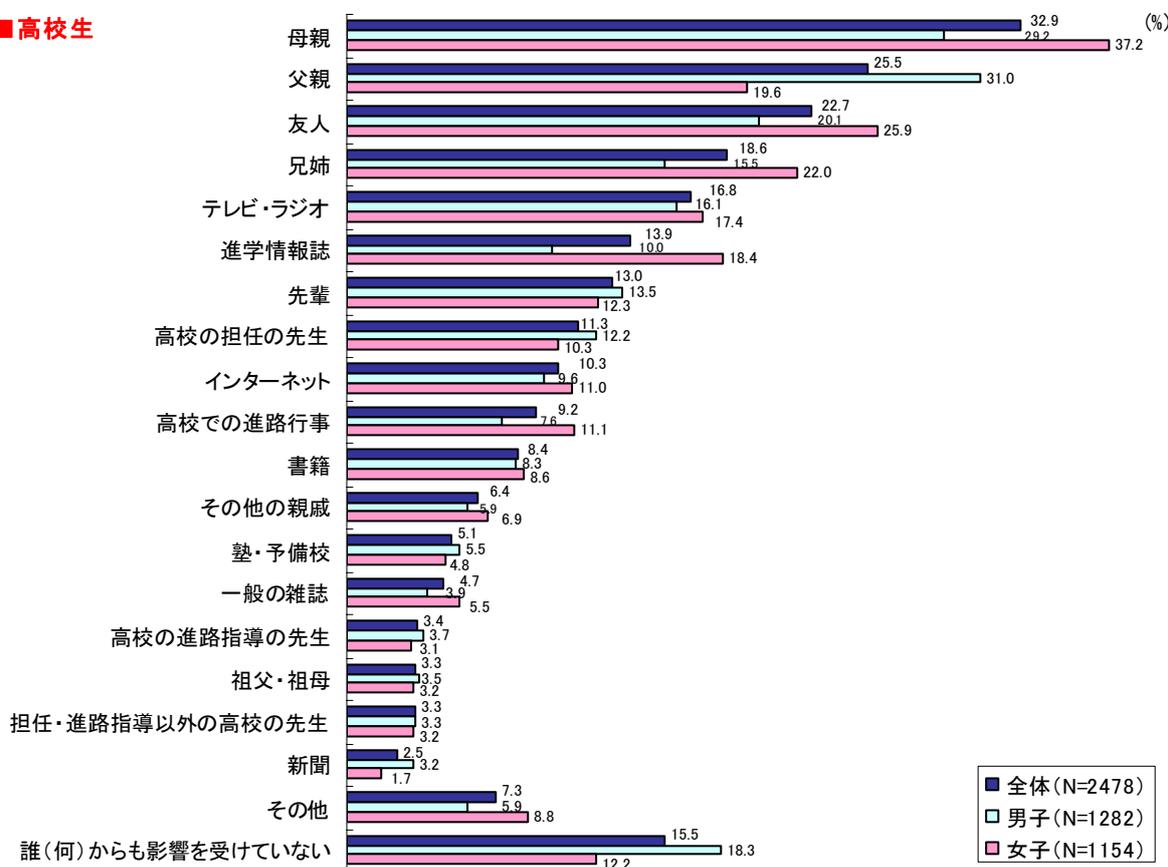
8. 進路選択で影響を受けている人・もの

- 上位は「母親」33%と「父親」26%
- 女子は「母親」、男子は「父親」からの影響大

生徒が進路を考えるうえで影響を受けている人・ものでも、相談相手についての回答と同様、最も多いのは「母親」で33%が挙げた。2番目は「父親」の26%で、保護者の影響力の大きさがうかがえる。これを男女別に見ると、男子は父親、女子は母親からの影響を強く受けていることがわかる。男子では多い順に「父親」31%、「母親」29%、「友人」20%。女子では「母親」が37%と男子より多く、「友人」26%、「兄姉」22%、「父親」20%と続く。また、一番影響を受けている人・ものの1位も「母親」だった。その理由から、「一番近くにいる大人」「一番多く相談している」など最も身近な存在として影響が大きいことがわかる。また2位の「父親」については、「将来、父親のようになりたい」など生き方・働き方のモデルとして見ている人や、「父親が駄目って言ったら駄目になる」など承認や経済面での影響力を言う人も少なくない。

Q. 生徒は進路について誰(何)から影響を受けているか(複数回答)

■ 高校生



>>一番影響を受けている人・ものと、そう思う理由

- **母親**：一番近くにいる大人だから(佐賀・女子、専門)／一番多く相談しているし、母から得る情報が最も多い(山梨・女子、大短)／社会の厳しさを、事細かに言われるから(愛知・男子、就職)／自分のなりたかった職業を貫いている強さがスゴイと思うから(佐賀・女子、大短)
- **父親**：将来、父親のようになりたいから(北海道・男子、大短)／今もしっかり仕事をしているし、現場を実際に見て、考えさせられるものがあるから(青森・男子、就職)／だいたい父親が駄目って言ったら駄目になるので……(北海道・女子、就職)／経済的に迷惑をかけられないから(大分・女子、大短)
- **友人**：友人が進路のことを考えているのを見ると、自分もやらないといけないと思うから(東京・女子、大短)／友人の進

- 路が明確だと、少し不安になる時がある(佐賀・女子、大短)
- **兄姉**：お姉ちゃんが将来の夢を叶えるために頑張っているのを見てから(奈良・女子、大短)／姉はしっかりして社会に出てバリバリ働いているから、私はこのままでいいのかなと考えさせられる(奈良・女子、就職)
- **テレビ・ラジオ**：テレビに出ている人の生き方にすごく影響を受ける(大分・女子、大短)／ニュースを見て、いまだに企業のリストラが激しく採用が少ないことなどを知るから(青森・男子、大短)
- **進学情報誌**：知りたいことがわかりやすく書かれている(愛知・女子、大短)／いろんな職業が載っているのを見ると、これやりたい!というのが浮かんでくるので(青森・女子、専門)

9. 保護者の仕事についての認知状況

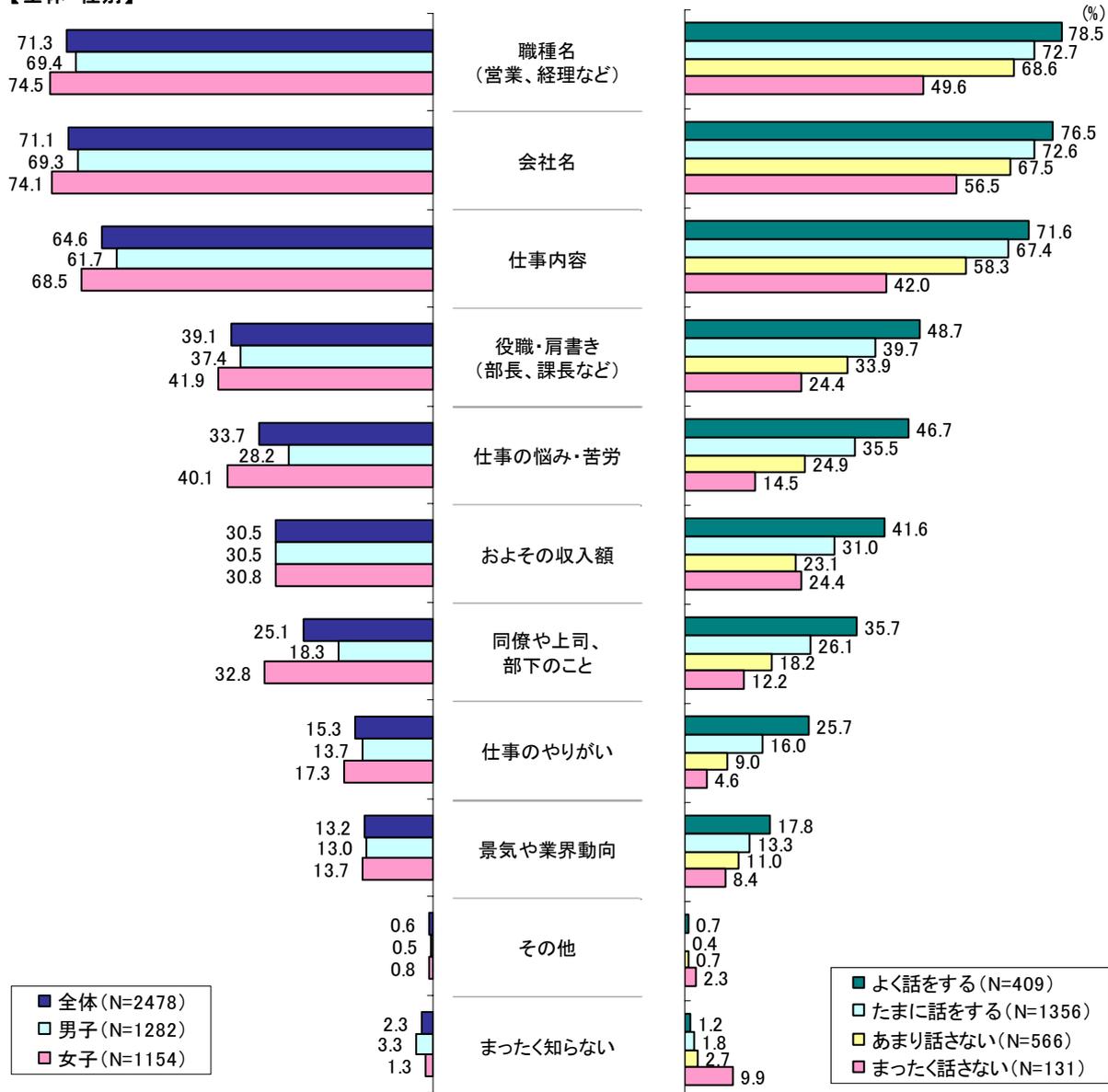
- 「仕事内容」を知っている高校生は65%。「仕事のやりがい」は15%と少なめ
- 進路について保護者と話す人ほど、保護者の仕事内容を知っている

保護者の仕事について知っていることを生徒に挙げてもらったところ、「職種名」「会社名」は7割以上、「仕事内容」も6割以上が認知していることがわかった。「仕事のやりがい」は15%と少ないものの、「仕事の悩み・苦勞」は34%と比較的多い。また、男女別では男子より女子のほうが、進路について保護者と話す頻度別ではよく話す人ほど、保護者の仕事についてさまざまなことを知っているという傾向が見られた。

Q. 保護者の仕事についてどんなことを知っているか(複数回答)

■ 高校生

【全体・性別】

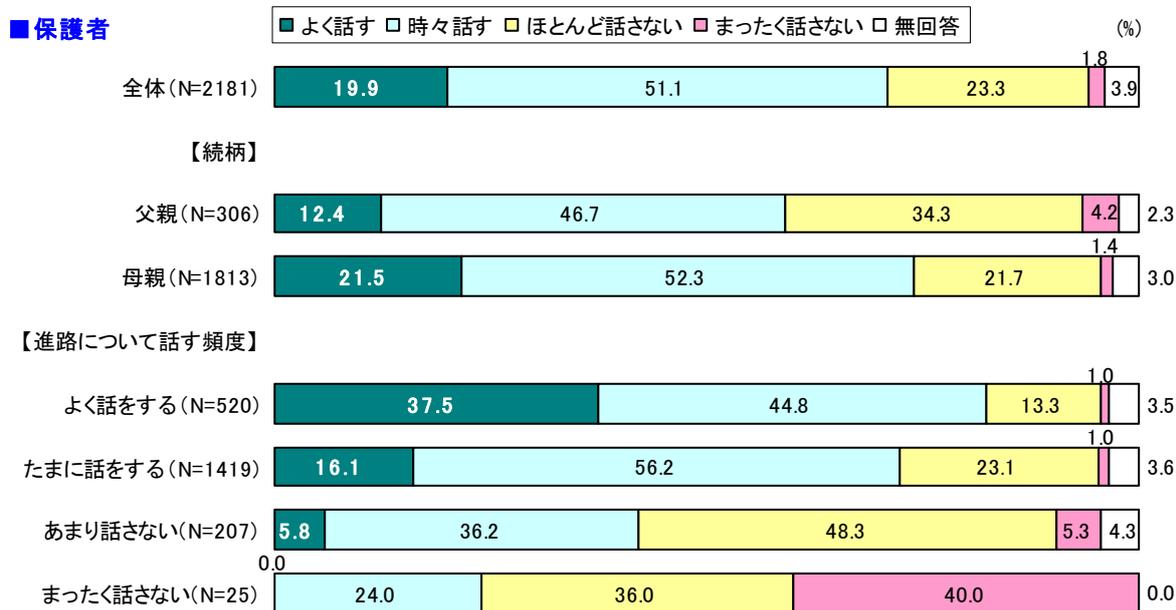


10. 保護者の仕事についての会話状況

- 保護者の71%が仕事内容、楽しさや大変さを子どもに話している
- 父親は59%、母親74%と目立つ差

保護者に、自分または配偶者の「仕事の内容、楽しさや大変さ」を子どもに話しているかをたずねたところ、「よく・時々話す」が7割に達した。比較的いろいろなことを話している様子が見える。しかし、話しているという母親が74%なのに対して、父親は59%と差が目立つ。また、進路についてよく話す親子ほど、保護者の仕事内容についても話していた。

Q. 保護者は生徒に仕事の内容、楽しさや大変さを話しているか



>>仕事について話している内容

○お金をもらうということは大変なことだと、時々話す(大分・父親、女子)
 ○サービス業のため、休日・早朝出勤があったり、我慢も必要ということ(大分・父親、女子)
 ○社会への貢献度、仕事を成し遂げた達成感のすばらしさなど。半面、ひどい仕打ちをされたことも話している(岡山・父親、男子)
 ○仕事の達成感や、それを成し遂げるまでの苦労など(山梨・父親、女子)
 ○職場での楽しかったことや辛かったことなど、感じたことをありのままに話しています(山梨・母親、男子)
 ○大変だったことよりも、こんなおもしろいことがあったとか、お互い言葉で相手に伝えないとわからないことがあるんだよとか、毎日話しますね(愛知・母親、女子)
 ○人間関係など。世の中にはいろんな人がいて、決して自分が

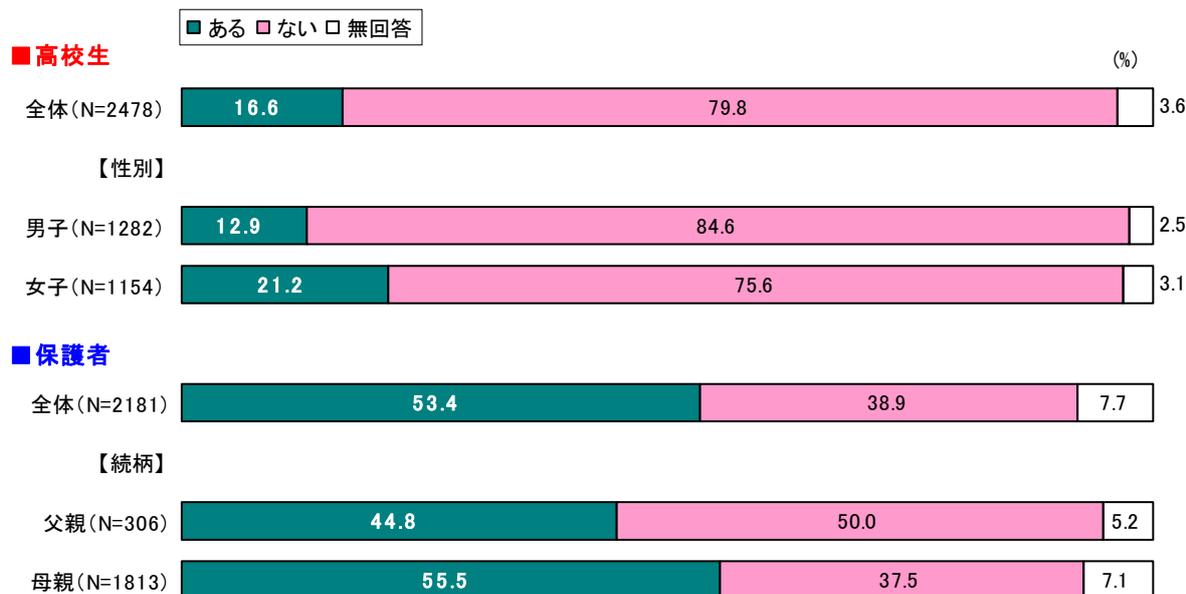
好きな人ばかりではないので……(青森・母親、女子)
 ○仕事をしてきてのツラさ、楽しさを、オペラートに包んで失望しないように、希望を持たせるように話している(群馬・母親、男子)
 ○仕事でミスしてしまった時、ついつい口に出してしまう。子どもは心配するようだが、最終的に大丈夫と知るとホッとしている(東京・母親、女子)
 ○同じ職場で働いている人たちの話をよくします。こういう理由で前の会社を辞めたとか、再就職までかなり時間がかかったなど(青森・母親、男子)
 ○仕事の話は「楽しい」とは言わないが、大変さなどは話す。仕上がった仕事を見て、子どもながらにスゴイ!と思っているようです(群馬・母親、男子)
 ○私は看護師なので、人に喜ばれるすばらしさなどを話します(群馬・母親、男子)

11. 働く意味についての会話状況

- 「なぜ働かなければならないのか」を話し合ったことがある高校生は17%と少数
- 保護者の回答は53%で、子どもとの認識に大きなギャップ

「なぜ働かなければいけないのか」という重いテーマを親子で話し合ったことがあるかについては、「ある」が生徒で17%、保護者で53%と、大きなギャップが見られた。保護者は「話し合っている」つもりだが、生徒には聞いた記憶がない、または話し合わず一方的に伝えているということだろうか。

Q. 「なぜ働かなければいけないのか」について保護者と生徒で話し合ったことがあるか



>> 「なぜ働かなければいけないのか」について話し合った内容

■ 高校生コメント

- 働かずに収入は得られない。いつまでも親のスネをかじるべきでない (福井・男子、大短)
- 自分や身内を養っていかなければならないから (青森・男子、就職)
- 成人して、1人の人間として自立していかなければならない。いつまでも親に甘えていられない (北海道・女子、大短)
- ラクなだけでは楽しくない。“しんどいけど充実”のほうが楽しいこと (奈良・女子、大短)
- 生きがいを見つけたら、人は輝いてくるということ (奈良・女子、専門)

■ 保護者コメント

- もし収入がなかったら、わが家がどうなるかを考えさせている (奈良・母親、男子)

- 生きるということは、家族の中でもそれぞれ役割があるということ。結婚して家庭を持てば夫婦で家計を支える役割を持つことになり、子どもを持てば自活まで導く責任を持つということなど、いろいろです (愛知・母親、男子)
- 食うために働くか、働くために食うかは個人により違うが、生きるためには必ず付いて回るものであり、家族ができれば養う義務があると、常々話している (愛知・父親、男子)
- お母さんも社会に出て働いて、喜びを感じてきたなど (愛知・母親、男子)
- 生きるために、人生や社会を豊かにするためになど、さまざまな理由がある (東京・父親、女子)
- 今までは親や周りの方のお陰で成長してきた。これからは逆の立場となって、社会にお返ししていく立場になるんだよ、と話しています (青森・母親、男子)

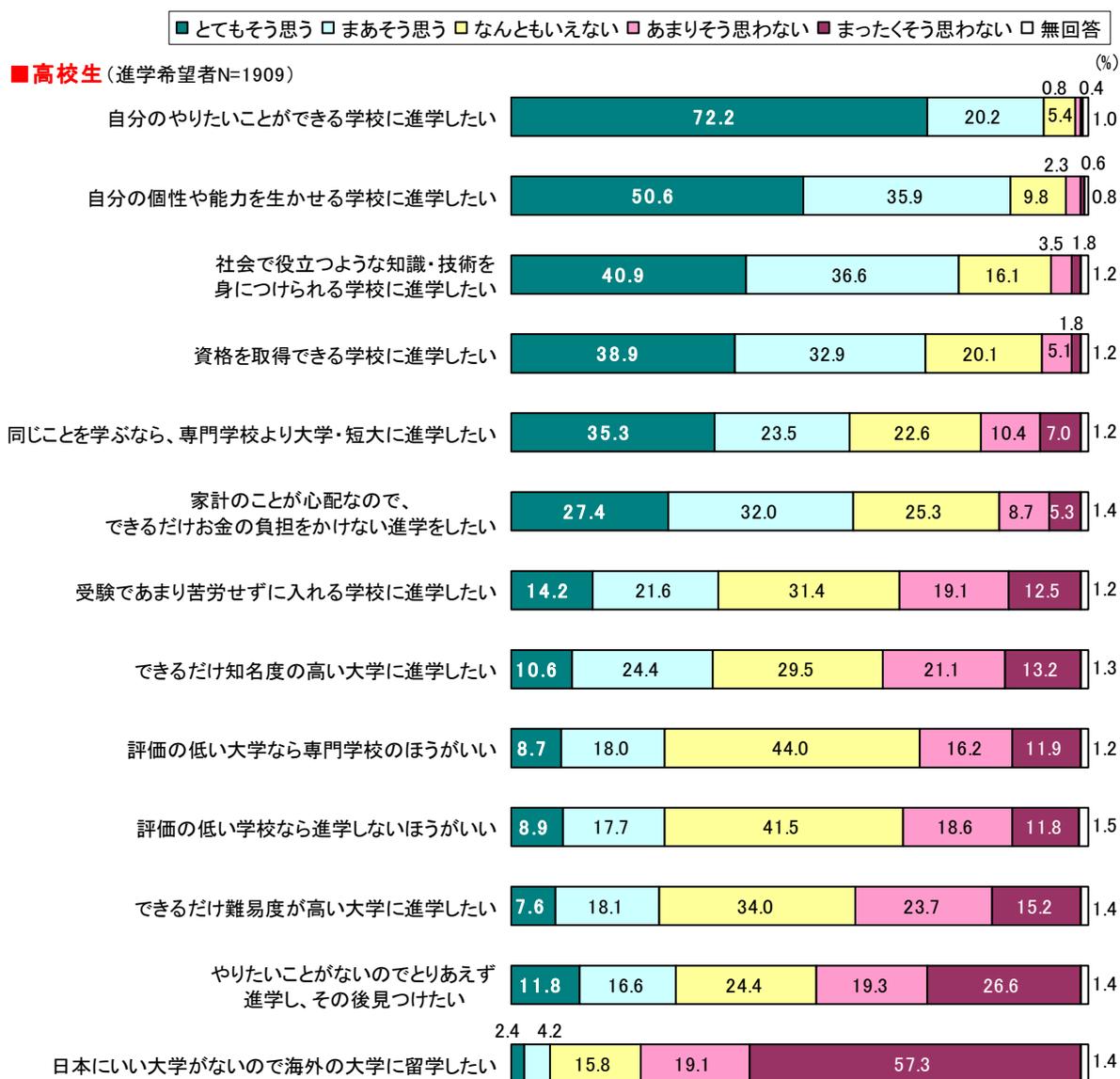
Ⅱ. 進学に関する考えと情報

1. 進学についての価値観 …①高校生

- 92%が「やりたいことができる学校」を希望
- 知名度や難易度より「やりたいこと」「個性や能力」を重視

進学を希望する生徒に、進学に関する 13 の考え方について、それぞれどう思うかを聞いた。共感する人が最も多かったのは「自分のやりたいことができる学校に進学したい」で、「とても・まあそう思う」は 92%。「自分の個性や能力を生かせる学校に進学したい」「社会で役立つような知識・技術が身につく学校に進学したい」と思う人も 8 割前後と高い。「知名度」や「難易度」などより「やりたいこと」「個性や能力」、そして「社会で役立つ知識・技術」「資格」を重視していることがわかった。

Q. 生徒は進学に際してどんな価値観を持っているか



2. 進学についての価値観 …②保護者

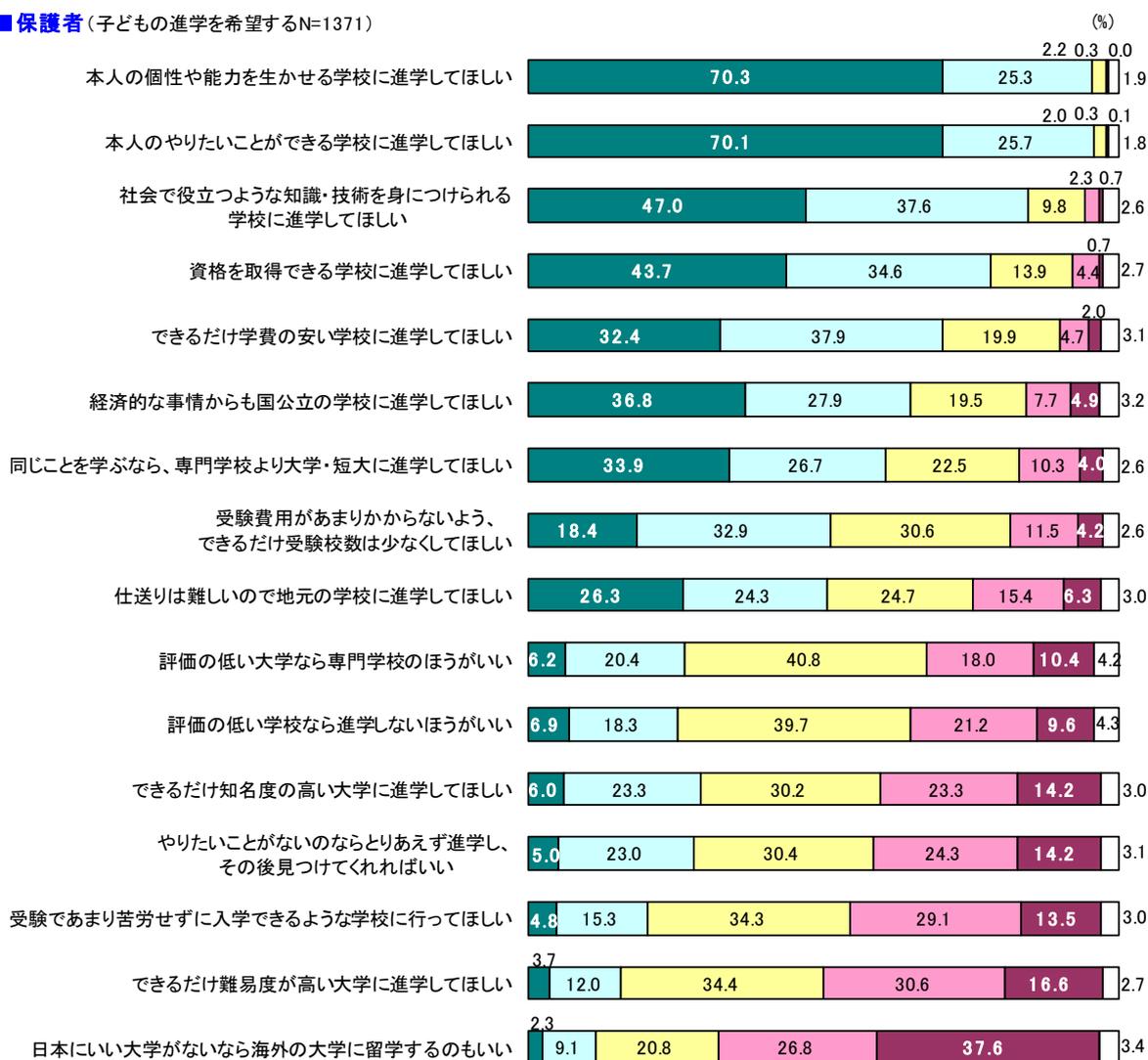
■ 「個性や能力」や「やりたいこと」を重視する、生徒と似た傾向

子どもの進学を希望する保護者に対しても、16項目について同様に質問した。「本人の個性や能力を生かせる学校に進学してほしい」と「本人のやりたいことができる学校に進学してほしい」と思う人はともに95%超。次いで「社会で役立つ知識・技術」や「資格」が上位となり、生徒と似たような傾向が見られた。

Q. 保護者は生徒の進学に際してどんな価値観を持っているか

■ とてもそう思う □ まあそう思う □ なんともいえない □ あまりそう思わない ■ まったくそう思わない □ 無回答

■ 保護者 (子どもの進学を希望するN=1371)



3. 重要だと思う進学情報

- 高校生は「学部・学科の内容」、保護者は「現在の入試制度の仕組み」が最多
- 入試が気になる男子、将来まで見通したい女子

進学希望の生徒と保護者に、【進学情報の内容】の中から重要だと思うものを5つまで選んでもらった。生徒は「学部・学科の内容」の回答が50%と最も多く、「将来の職業との関連」「難易度」も4割を超えた。男女別に見ると、男子は「難易度」「現在の入試制度の仕組み」「入試の内容」など入試に関する項目の高さが目立ち、女子は「将来の職業との関連」「就職の状況」といった進学後まで見通せる情報が高かった。また、専門学校希望者で最多は「将来の職業との関連」だった。

一方、保護者が最も重要だと思っている情報は「現在の入試制度の仕組み」51%で、保護者自身の時代から様変わりした入試制度について知りたい要望が高いようだ。「将来の職業との関連」「就職の状況」といった進学後の就職についての情報も40%台と高い。父親と専門学校希望者では「進学費用」が最も多かった。

Q. 進学に際してどんな情報を必要としているか(5つまで回答)

■高校生(進学希望者)

(%)

順位		全体 (N=1909)	【性別】		【希望進路】					
			男子 (N=989)	女子 (N=900)	大学・短大進 学(N=1437)	専門学校進 学(N=472)				
1	学部・学科の内容	50.0	1	49.0	1	51.7	1	55.0	3	34.7
2	将来の職業との関連	44.6	5	40.4	2	49.3	3	44.6	1	44.7
3	難易度	40.3	2	44.8	5	35.4	2	45.0	9	26.1
4	入試の内容	39.7	4	41.1	4	37.8	5	42.5	5	30.9
5	進学費用(学費・生活費など)	39.5	6	38.2	3	41.4	6	38.3	2	43.4
6	現在の入試制度の仕組み	39.4	3	44.1	6	34.7	4	43.5	8	27.1
7	就職の状況(実績)	26.1	7	23.1	7	29.4	7	25.7	7	27.3
8	授業の内容	24.8	8	21.4	8	28.4	8	22.8	5	30.9
9	資格取得の状況(実績)	23.0	10	19.8	9	26.7	10	20.1	4	31.8
10	校風・雰囲気	22.8	9	21.0	10	24.8	9	22.6	10	23.3

■保護者(子どもの進学を希望する者)

(%)

順位		全体 (N=1371)	【続柄】		【希望進路】					
			父親 (N=202)	母親 (N=1135)	大学・短大進 学(N=1101)	専門学校進 学(N=270)				
1	現在の入試制度の仕組み	51.3	2	46.0	1	52.4	1	58.1	7	23.7
2	将来の職業との関連	46.6	3	43.1	2	48.1	3	47.2	3	44.1
3	学部・学科の内容	44.7	5	35.6	3	47.0	2	51.9	10	15.6
4	進学費用(学費・生活費など)	43.8	1	48.0	4	43.1	4	42.4	1	49.3
5	就職の状況(実績)	40.4	4	43.1	5	40.4	5	40.9	4	38.5
6	資格取得の状況(実績)	34.4	7	31.7	6	35.3	6	31.5	2	46.3
7	入試の内容	28.7	8	26.7	7	29.4	7	31.4	9	17.4
8	奨学金の種類と採用条件	24.7	9	24.8	8	24.6	9	24.6	6	25.2
8	難易度	24.7	6	32.2	9	23.3	8	27.1	11	15.2
10	大学・短大・専門学校など学校種の違い	15.8	12	11.4	10	16.4	10	13.2	5	26.3

【進学情報の内容】 ※下記の項目から重要だと思うものを5つまで選択してもらった

最近の高校生の卒業後の進路／大学・短大・専門学校など学校種の違い／現在の入試制度の仕組み／学部・学科の内容／入試の内容／自分の高校からの入学実績／難易度／知名度／進学先の教育方針／校風・雰囲気／カリキュラムの特徴／教授(先生)陣の充実／授業の内容／施設・設備の充実／通学の便／周辺環境／将来の職業との関連／就職の状況(実績)／資格取得の状況(実績)／進学費用(学費・生活費など)／奨学金の種類と採用条件／進学に利用できる教育ローン／その他

4. 保護者の進学情報の入手方法

- 「担任」が44%と最多。次は「高校での進路行事」で30%
- 専門学校については、学校よりもインターネット

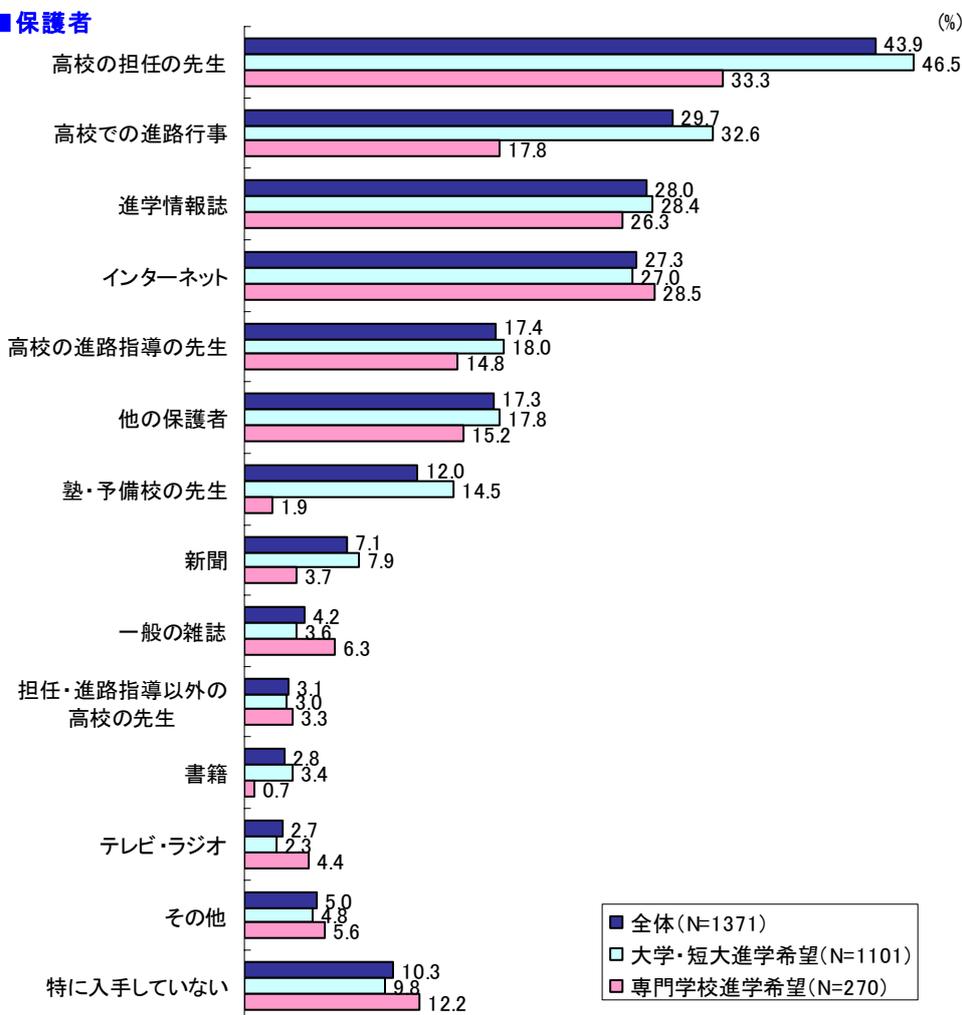
子どもの進学を希望する保護者に、どのように進路情報を入手しているか質問した。多い順に「高校の担任の先生」44%、「高校での進路行事」30%となり、高校が重要な情報源となっていることがわかる。また、「進学情報誌」28%、「インターネット」27%も多く、同時にさまざまな情報源を活用しているようだ。

希望進路別に見ると、専門学校希望者は「高校の担任の先生」が 33%、「高校での進路行事」が 18%で、大短希望者より10ポイント以上少ないのが目を引く。その一方で「インターネット」は大短希望者よりも多い29%が活用しており、「高校の担任の先生」に次いで2番目に多い入手ルートとなっている。

また、進路について子どもと話す頻度別に見たところ、よく話している保護者ほど情報入手も活発な傾向が見られた。

Q. 保護者は進路情報をどんな方法で入手しているか(複数回答)

■ 保護者



Ⅲ. 働くことに関する考え

1. 高校生が希望する職業

- 将来なりたい職業がある高校生は7割
- 1位は「公務員」9%。男子では「公務員」、女子では「保育士・幼稚園教諭」

生徒の65%が「将来なりたい職業がある」と回答。最もなりたい人が多かったのは「公務員」で、およそ10人に1人が挙げた。男女別に見ると、男子は「公務員」「技術者・研究者」「教師」、女子は「保育士・幼稚園教諭」「看護師」が人気だ。

Q. 生徒には将来なりたい職業があるか



Q. 生徒はどんな職業に就きたいか

■ 高校生 (就きたい職業がある者)

	全体 (N=1616)	%
1	公務員 (国家・地方)	9.3
2	教師	6.7
3	保育士・幼稚園教諭	6.5
4	技術者・研究者	5.4
5	看護師	4.6
6	整備士	3.8
7	調理師・シェフ・パティシエ、フード関連	3.6
8	俳優・タレント・ミュージシャン	3.4
	美容師・理容師	3.4
10	医者・歯科医師・獣医	3.0
11	トリマー・動物関連	2.5
	薬剤師	2.5
13	ゲーム関係	2.2
	建築設計士	2.2
15	グラフィックデザイナー・CGデザイナー	2.0
16	事務	1.9
17	会計士・税理士	1.8
	社会福祉士・介護福祉士・介護士等、福祉関係	1.8
19	販売 (ショップの店員など)	1.7
20	会社員	1.6
	ヘア・メイクアーティスト	1.6
	心理カウンセラー	1.6

	男子 (N=776)	%
1	公務員 (国家・地方)	14.3
2	技術者・研究者	9.3
3	教師	7.7
	整備士	7.7
5	医者・歯科医師・獣医	4.3
	俳優・タレント・ミュージシャン	4.3
7	建築設計士	3.9
8	ゲーム関係	3.6
9	美容師・理容師	3.1
10	会社員	3.0

	女子 (N=825)	%
1	保育士・幼稚園教諭	10.8
2	看護師	8.0
3	教師	5.8
4	調理師・シェフ・パティシエ、フード関連	4.8
5	公務員 (国家・地方)	4.6
6	トリマー・動物関連	3.9
7	美容師・理容師	3.5
8	事務	3.4
9	ヘア・メイクアーティスト	3.0
	薬剤師	3.0

>> その職業に就きたい理由

■公務員

- 休日もきちんとして、収入が安定(佐賀・男子、大短)
- 一生安泰だから(岡山・男子、就職)
- 休日・給料・リストラなどの点で安定した職業(北海道・男子、大短)
- 人の役に立てそうだし、やりがいがありそうだから(福井・男子、大短)
- 地方のみんなに協力したい(奈良・女子、大短)

■教師

- 学校の先生たちのイキイキと仕事をしている姿を見て、自分もなりたと思ったから(山梨・女子、大短)
- 子どもが好きだし、やりがいがありそう(福井・女子、大短)
- 自分の先生がしてくれたことを、自分も先生になって生徒にしてあげたいと思ったから(群馬・男子、大短)
- 尊敬している先生のようにになりたい(愛知・女子、大短)
- 一応、公務員だし、収入も安定しているから(群馬・男子、大短)

■保育士・幼稚園教諭

- 小さい頃からの夢でもあり、小さな子どもが好きだから(北海道・女子、専門)
- 子どものお世話をしたりするのが好きだから(東京・女子、大短)
- 職場体験をして、やりがいを感じたから(岡山・女子、大短)

■技術者・研究者

- 機械や工作が好きで、将来、人のために働く機械を作りたいと考えているから(山梨・男子、大短)
- コンピューター系が楽しそうだから(岡山・男子、大短)
- 工業科で培った技術を生かしたい(福井・男子、就職)

■看護師

- 人を助ける仕事をしたいから(青森・女子、大短)
- 人の命を預かる仕事で、やりがいと責任がある(佐賀・女子、専門)

■整備士

- 自動車が大好きだから(北海道・男子、就職)
- 組み立てたりするのが好きだから(福井・男子、専門)

■フード関連

- 昔からお菓子を作るのが好きだったから(岡山・女子、専門)
- 自分の作ったものを「おいしい」と言ってもらえるのが嬉しいから(山梨・女子、専門)

■俳優・タレント・ミュージシャン

- 好きなことをして食べていきたいから(北海道・女子、大短)
- 今ギターをやっていて、楽しいから(愛知・男子、就職)

■美容師・理容師

- 人をキレイにしてあげたいから(山梨・女子、専門)
- 前々から興味は持っていた。技術をしっかり身に付ける職がいいから(佐賀・女子、専門)

■医者・歯科医師・獣医

- 自分が患者として体験し、興味があるから(大分・女子、大短)
- 動物が好きだから、動物を助けることができる獣医の仕事に強く望む(山梨・女子、大短)

■トリマー・動物関連

- 昔から動物が好きで、一番やりがいがありそうだから(東京・女子、大短)
- 小さい時から動物が大好きだから(愛知・女子、専門)

■薬剤師

- 人を救えるので(大分・男子、大短)

2. 高校生が希望しない職業

■ 1位は「フリーター」22%

■ 就きたい2位の「教師」は、就きたくない3位にもランクイン

就きたくない職業については、「フリーター」が22%と最多で、それに「政治家」「教師」が続いた。「教師」は就きたい・就きたくないの両方で上位にあがっている。また、男女とも1位は「フリーター」。それに男子は「教師」「政治家」「主婦・主夫」「会社員」、女子は「政治家」「教師」「医者・歯科医師・獣医」「主婦・主夫」と続く。

Q. 生徒はどんな職業に就きたくないか

■ 高校生

全体(N=2478)			男子(N=1282)			女子(N=1154)		
		%			%			%
1	フリーター	21.7	1	フリーター	24.0	1	フリーター	19.4
2	政治家	7.4	2	教師	5.3	2	政治家	9.9
3	教師	5.3		政治家	5.3	3	教師	5.5
4	主婦・主夫	3.0	4	主婦・主夫	3.4	4	医者・歯科医師・獣医	3.3
5	医者・歯科医師・獣医	2.8	5	会社員	2.7	5	主婦・主夫	2.5
6	自営業	2.1	6	医者・歯科医師・獣医	2.3	6	自営業	2.4
	俳優・タレント・ミュージシャン	2.1	7	俳優・タレント・ミュージシャン	1.9	7	俳優・タレント・ミュージシャン	2.3
8	公務員(国家・地方)	2.0		自営業	1.9	8	公務員(国家・地方)	2.2
	会社員	2.0	9	公務員(国家・地方)	1.8	9	弁護士・法律関連	2.1
10	弁護士・法律関連	1.7	10	弁護士・法律関連	1.3	10	看護師	2.0
				パイロット	1.3			

>> その職業に就きたくない理由

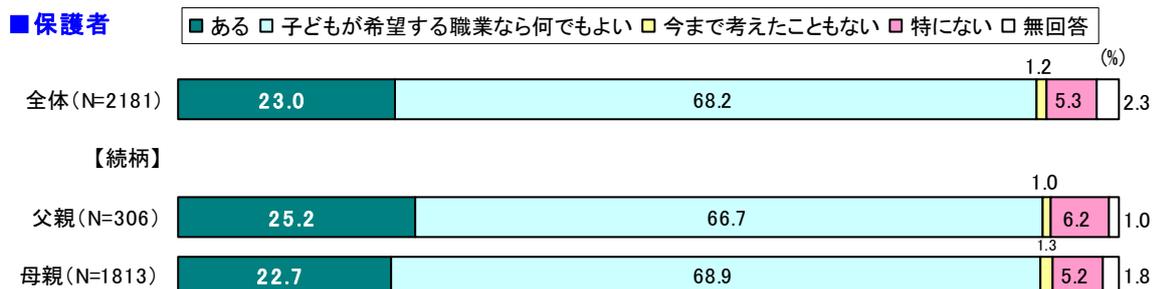
- フリーター：収入が少ないから（福井・男子、就職）
- フリーター：つまらなそうだから（東京・女子、専門）
- フリーター：ラクそうで羨ましいけど、やっぱりよくないと思うから（群馬・男子、大短）
- フリーター：せっかく大学に行っても、フリーターになっては意味がないと思うから（大分・女子、大短）
- フリーター：情けない（福井・男子、就職）
- 政治家：テレビで見ても、汚いイメージしかないから（山梨・男子、大短）
- 政治家：政治のことはよくわからないし、いろいろ大変そう（東京・女子、大短）
- 教師：とてもツラそう。給料とか割に合わなそう（群馬・男子、大短）
- 教師：自分のような人に教えていくのは、自分にはできないから（奈良・男子、大短）
- 教師：中学時代、教師をイマイチ信用できなかったから（福井・女子、大短）
- 主婦・主夫：働いて、人の役に立ちたい（山梨・女子、大短）
- 主婦・主夫：家で働くより、外で働きたい（北海道・女子、専門）
- 医者・歯科医師・獣医：血を見たくない（奈良・男子、大短）
- 医者・歯科医師・獣医：人の命を預かるのが怖い（岡山・女子、大短）
- 自営業：親が自営業で苦労しているのを見ているので、なりたくないと思う（山梨・女子、大短）
- 俳優・タレント・ミュージシャン：大勢の前で何かをするのが好きじゃない（東京・女子、大短）
- 公務員：面倒くさそうで、仕事が楽しくなさそう（青森・男子、大短）
- 公務員：つまらない人生を送りそうだから（東京・女子、大短）
- 会社員：普通な感じの仕事が嫌だから（東京・女子、大短）
- 弁護士・法律関連：難しいのは苦手！（愛知・女子、専門）

3. 保護者が子どもに望む職業

- 「ある」は23%、68%が「子どもが希望する職業なら何でもよい」
- 就いてほしい1位は「公務員」30%

保護者に対して、お子さんに就いてほしい職業があるか聞いたところ、23%が「ある」、68%が「子どもが希望する職業なら何でもよい」と回答。希望する職業があるという人の30%が「公務員」を挙げた。就いてほしい理由のコメントから、安定を第一に望む保護者の多さがうかがえる。

Q. 子どもに就いてほしい職業があるか



Q. 子どもにどんな職業に就いてほしいか

■ 保護者 (就いてほしい職業がある者)

全体 (N=501)		子どもが男子 (N=252)		子どもが女子 (N=244)	
順位	職業 (%)	順位	職業 (%)	順位	職業 (%)
1	公務員 (国家・地方) 29.7	1	公務員 (国家・地方) 35.3	1	公務員 (国家・地方) 23.8
2	教師 8.2	2	技術者・研究者 9.5	2	看護師 11.5
3	看護師 6.8	3	教師 9.1	3	薬剤師 7.8
4	技術者・研究者 5.8	4	医者・歯科医師・獣医 7.5	4	教師 7.4
5	医者・歯科医師・獣医 5.6	5	会社員 6.7		保育士・幼稚園教諭 7.4
6	薬剤師 5.4	6	会計士・税理士 3.2	6	事務 5.3
7	会社員 5.0		薬剤師 3.2	7	医者・歯科医師・獣医 3.7
8	保育士・幼稚園教諭 3.8	8	自営業 2.8	8	会社員 3.3
9	事務 3.2	9	整備士 2.4	9	心理カウンセラー 2.9
10	会計士・税理士 2.0	10	弁護士・法律関連 2.0	10	トリマー・動物関連 2.5
			看護師 2.0		

>> その職業に就いてほしい理由

- 公務員：とても無理だと思いますが、安定しているので (奈良・母親、女子)
- 公務員：厳しい状況になりつつあるが、いつの世も公務員は安定した職業だと思うから (青森・母親、男子)
- 公務員：安定した給料がもらえ、結婚後も働けて産休・育児休業があるので (奈良・母親、女子)
- 公務員：女性でも、民間より職種差別が少なく、やりがいがあると思う (福井・父親、女子)
- 公務員：倒産の心配がない、安定職と思えるから (佐賀・母親、女子)
- 教師：将来、職に困らないように (佐賀・母親、女子)
- 教師：本人がなりたいと思っているし、人と関わる仕事に就いてほしい (大分・母親、女子)
- 教師：地元で働ける。本人の特性に合っている (福井・母親、女子)
- 看護師：仕事は大変だけど、安定性もあるし、長く働くことができる。子どもを見ていて向いているのでは?と思うこともある (佐賀・不明、不明)
- 看護師：就職に困らないから (佐賀・父親、女子)
- 技術者・研究者：手に職をつけてほしい (愛知・母親、男子)
- 技術者・研究者：国家資格のある技術を身につけてほしい (岡山・母親、女子)
- 医者・歯科医師・獣医：家業なので、跡を継いでほしい (群馬・父親、男子)
- 薬剤師：資格が取得でき、就職先も多いから (大分・母親、女子)
- 会社員：一般的だと思う (山梨・母親、男子)

4. フリーターに関する考え …①高校生

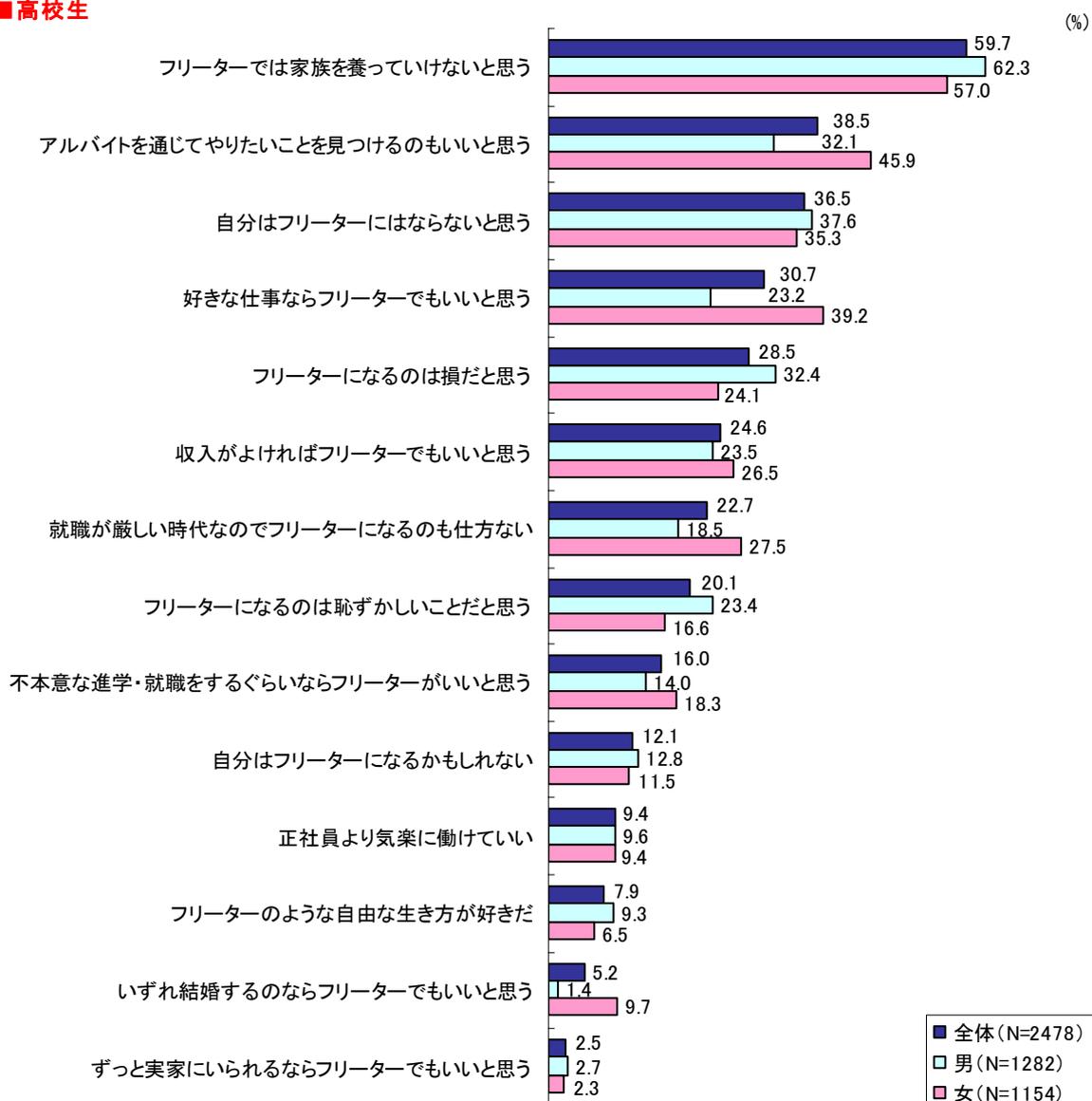
■ 60%が「家族を養っていけない」と回答

■ 「アルバイトを通じてやりたいことを見つけるのもいい」など受容的な回答も

フリーターについてどう思うかと生徒に問いかけたところ、「家族を養っていけない」という意見が最も多く60%が回答。その次に「アルバイトを通じてやりたいことを見つけるのもいい」39%、「自分はならない」37%、「好きな仕事ならいい」31%が続いた。男女別では、男子に「家族を養っていけない」「損」「恥ずかしい」、女子に「アルバイトを通じてやりたいことを見つけるのもいい」「好きな仕事ならいい」の多さが目に付いた。

Q. 生徒はフリーターについてどう思うか(複数回答)

■ 高校生



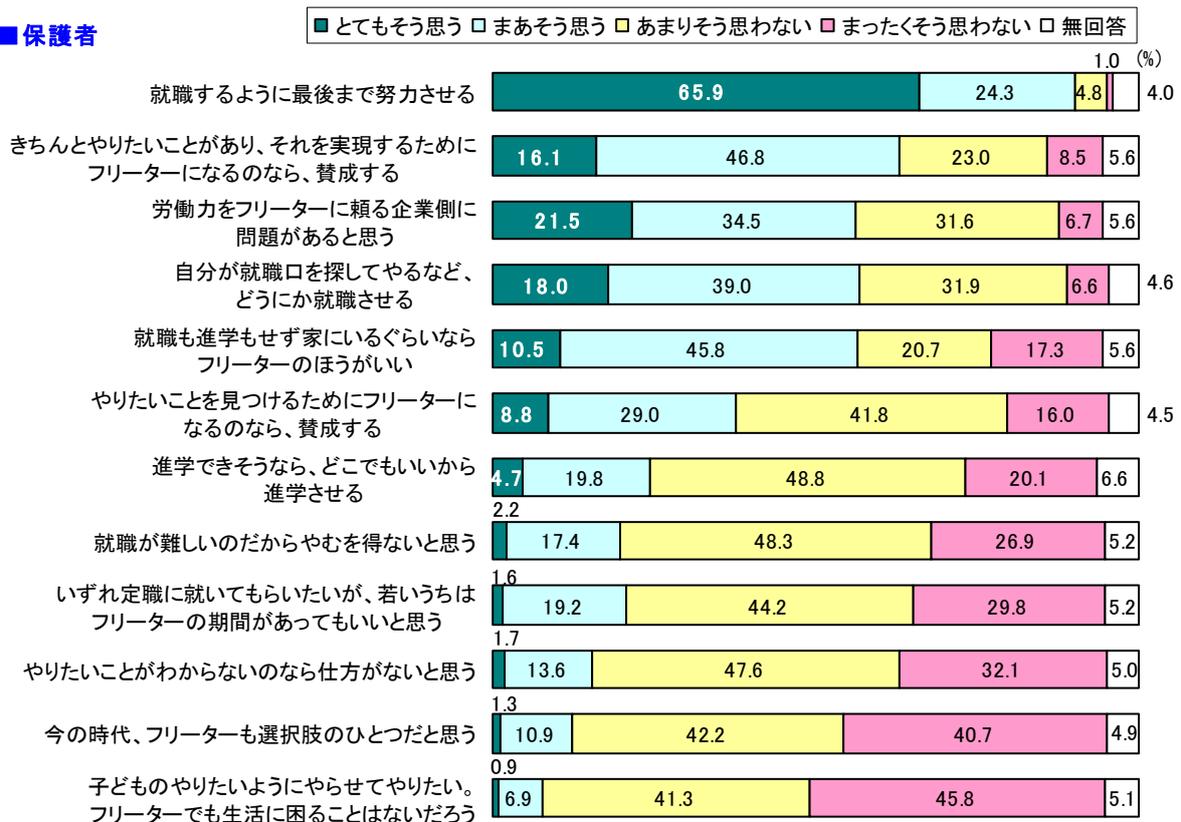
5. フリーターに関する考え …②保護者

- 90%が「就職するよう最後まで努力させる」と回答
- 「やりたいことの実現のためなら賛成」など条件付き許容も少なくない

保護者に対しては、自分の子どもがフリーターを希望したらどうするかを聞いた。「とても・まあそう思う」が最も多かったのは「就職するよう最後まで努力させる」で90%を超えた。2番目は「きちんとやりたいことがあり、それを実現するためにフリーターになるのなら、賛成する」63%で、条件付きで許容する保護者も少なくないようだ。

Q. 子どもがフリーターを希望したら保護者はどうするか

■ 保護者



>> 子どもがフリーターになることについて

■ 反対

- フリーターだからすぐ辞める・辞めさせる無責任さが許せない (愛知・母親、女子)
- フリーターはダメ、と子どもに言い聞かせています。歳相応に技能を身に付けていくためには、正社員になるしかないと思います (奈良・母親、男子)
- 理由はどうあれ、アルバイトは学生の間だけ。やりたい仕事ができるのは一番いいかもしれないが、そんな甘いものではない! (愛知・母親、男子)
- 企業がアルバイトという制度を活用し、教育や人件費のムダを省くという点では評価しているが、子どもに今賛成できるものではない (東京・父親、女子)
- 親に頼らず自力でフリーターになる覚悟があるのならそれも生き方だが、できれば定職を持って自己を磨いてもらいたい (東京・父親、女子)

■ 賛成・条件付き賛成

- 全く否定ではない。その時の子どものやる気などが問題 (青森・母親、男子)
- 何もしないでいるよりは、フリーターでも働くほうが良い (大分・母親、女子)
- 自分のやりたい職を見つけるということは、なかなか難しいと思う。収入を得るためには、とりあえずフリーターでも良いと思う (群馬・母親、男子)
- 社員でもクビになるし、会社が潰れることもあるので、今の時代で何がよいかわからない。それなら子どもの好きにさせてやりたい (奈良・母親、女子)
- どんな職業でも、責任をもって成し遂げるのであればかまわない (大分・父親、女子)

IV. ニートに関する考え

1. ニートに関する考え …①高校生

- 7割の生徒が「ニートの意味を知っている」
- 「自分はニートにならない」41%、「なるかもしれない」4%。どちらでもない生徒が6割
- 保護者とよく話す高校生ほどニートに否定的

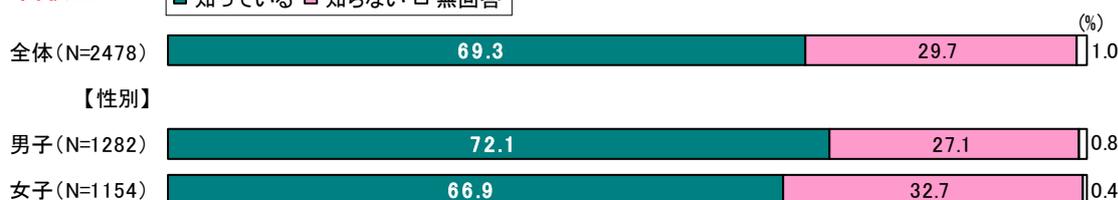
ニートの意味を知っているかと生徒に尋ねたところ、69%が「知っている」と回答した。また、ニートをどう思うかについても質問。「自分はニートにならないと思う」は41%で全選択肢中で最も多く、「自分はニートになるかもしれない」は4%だった。そのどちらでもない6割の生徒は、「なるとは思わない、しかしならないとも限らない」という不安定な状態であることが考えられる。さらに、進路に関する保護者との会話頻度別に見ると、「自分はニートにならない」「ニートになったら保護者がかわいそうだ」「ニートになるのは恥ずかしい」「なぜニートになってしまうのか不思議」といった項目は、保護者とよく話すほど支持率が高い。一方、「ニートになる人がいても不思議ではない」「ニートもひとつの生き方」といった項目は、保護者と話さないほど支持率が高くなる傾向が見られた。

Q. ニート(NEET)の意味を知っているか

※ニートとは、働かず、教育機関で学ばず、職業訓練も受けない若者のこと

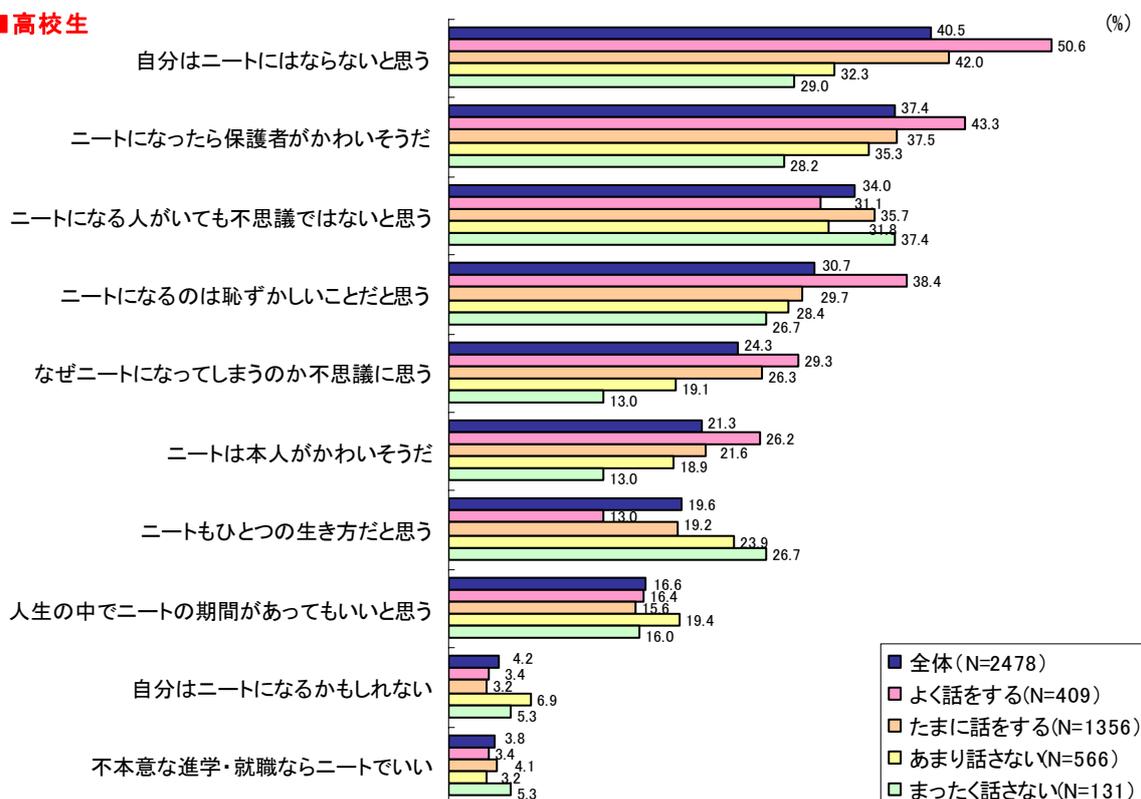
■ 高校生

■ 知っている ■ 知らない □ 無回答



Q. ニートに対してどう思うか (複数回答)

■ 高校生

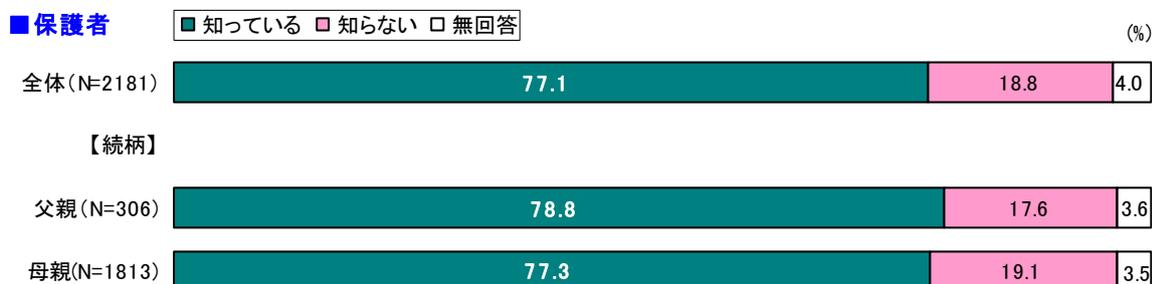


2. ニートに関する考え …②保護者

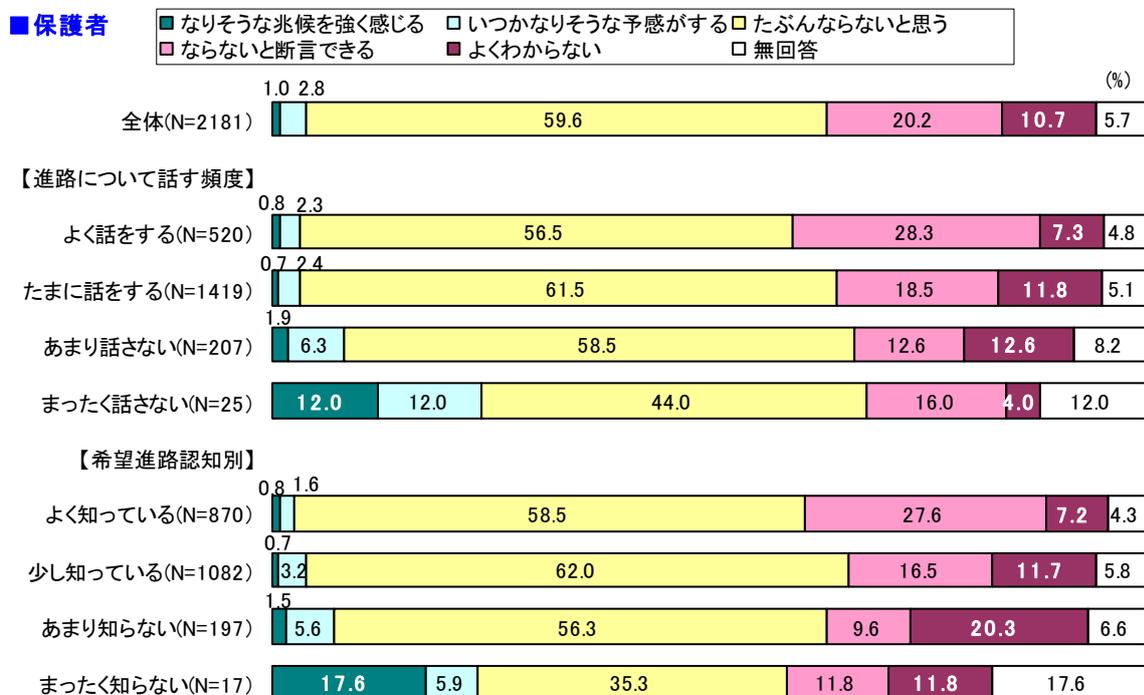
- 80%が「自分の子どもはニートにならない」と回答し、生徒より保護者のほうが楽観視
- 親子の会話が少ないほど、子どもの希望進路を知らないほど、ニートになる可能性を危惧

ニートの意味を知っている保護者は8割で、生徒の認知率を上回った。また、「自分の子どもが高卒後もしくは将来ニートになってしまうかもしれないと不安になることはあるか」という質問に対しては、「たぶんならないと思う・ならないと断言できる」は80%。高校生の回答で「自分はニートにならない」が40%だったことと比べると、保護者のほうが楽観的に考えていることがわかる。一方、「なりそうな兆候を強く感じる・いつかなりそうな予感がする」は4%。この割合は、進路に関する子どもとの会話が少なく、また子どもの希望進路を知らないほど大きくなる傾向がある。生徒、保護者のどちらの結果からも、ニートと親子コミュニケーションとの間には浅からぬ関係が見られた。

Q. ニート(NEET)の意味を知っているか



Q. 自分の子どもがニートになる不安はあるか



V. 進路にまつわる不安と困難

1. 進路を考える時の気持ち

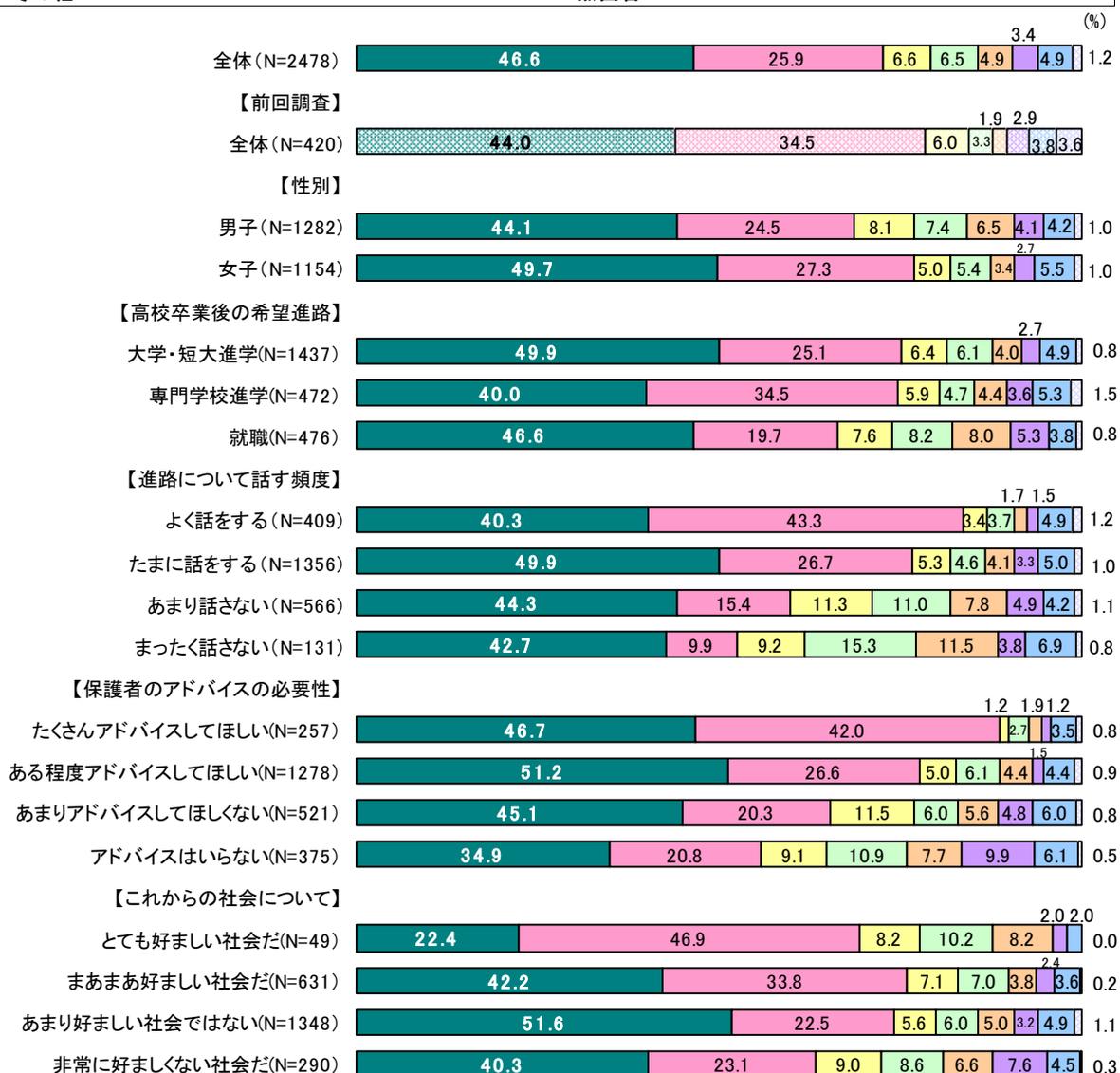
- 前回調査より「不安」が増加し47%。「楽しい」は大幅に減少し26%
- 進路について保護者と話す人ほど「楽しい」割合が大きい

進路を考える時に「自分がどうなってしまうのか不安になる」という生徒が47%と、半数近くもいた。「自分の可能性が広がるようで、楽しい」は26%で、前回調査から10ポイント近い減少となった。進路について保護者と話す頻度別に見ると、「よく話をする」人では「楽しい」が「不安」を上回るなど、話す人ほど「楽しい」割合が大きくなっている。

一次頁に続く

Q. 進路を考える時、生徒はどんな気持ちになるか

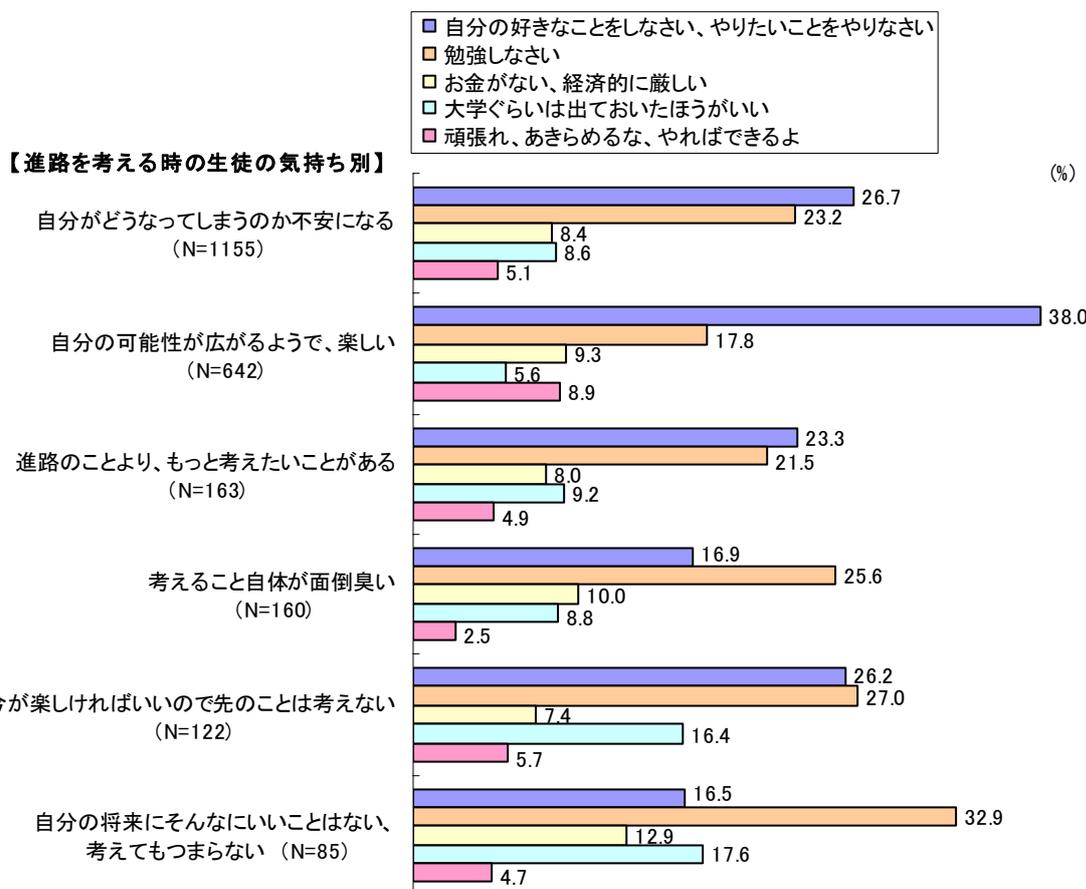
- | | |
|------------------------|-------------------------------|
| ■ 自分がどうなってしまうのか不安になる | □ 自分の可能性が広がるようで、楽しい |
| ■ 進路のことより、もっと考えたいことがある | □ 考えること自体が面倒臭い |
| ■ 今が楽しければいいので先のことは考えない | ■ 自分の将来にそんなにいいことはない、考えてもつまらない |
| ■ その他 | □ 無回答 |



進路を考える時の生徒の気持ち別に、p7で紹介した「保護者がよく使う言葉」の回答を見てみる。「楽しい」人は「自分の好きなことをしなさい〜」「頑張れ〜」と言われている割合が他の人よりも大きい。「考えること自体が面倒臭い」「今が楽しければいい」「将来にいいことはない」という人は、「勉強しなさい」が一番多い。

また、進路選択に関する気がかりについて自由に書いてもらったところ、「自分のやりたいこと」「自分に合う職業」などがわからないというコメントが多く目に付いた。進学希望者には成績への不安も目立った。

Q. 生徒の気持ち別に見た「保護者がよく使う言葉」(複数回答)



※ここでは「保護者がよく使う言葉」5つについて見る。全体については p7 参照

>> 進路選択に関する気がかり

- 自分は何が得意なのかわからない (大分・女子、大短)
- 将来の目標が見つからない (山梨・女子、大短)
- 自分がどのような職業に合うかわからない (佐賀・男子、大短)
- 何をしたいのか、どの大学に行きたいのかとか、全てわからない (奈良・男子、大短)
- 成績が希望進路に追いつくかどうか。進路を考え直したほうがいいのか…… (山梨・女子、大短)
- 大学受験に受かるかどうか (青森・女子、大短)
- 大学に上がったとしても、その後に自分のやりたいことができるのか? (東京・男子、大短)
- 自分が本当に将来やりたいことが見つからない (愛知・男子、専門)
- やりたいことはあるけど、本当に自分に合っているのか不安 (青森・女子、専門)
- お金がかかることなので不安 (愛知・男子、専門)
- いろいろやってみたいことが多くて、1つに絞った時に本当にそれでいいのか迷う (東京・女子、専門)
- そこに進学して、ちゃんと自立していけるか (佐賀・男子、専門)
- 就職先があるかどうか (大分・女子、就職)
- 自分のやりたい仕事がなく、好きでもない仕事ややる気が出ない仕事になってしまったらどうしよう (北海道・男子、就職)
- インターンシップがツラかったから、仕事を続けられるか心配 (愛知・男子、就職)

2. 働くことへの気がかり …①高校生:気がかりの有無

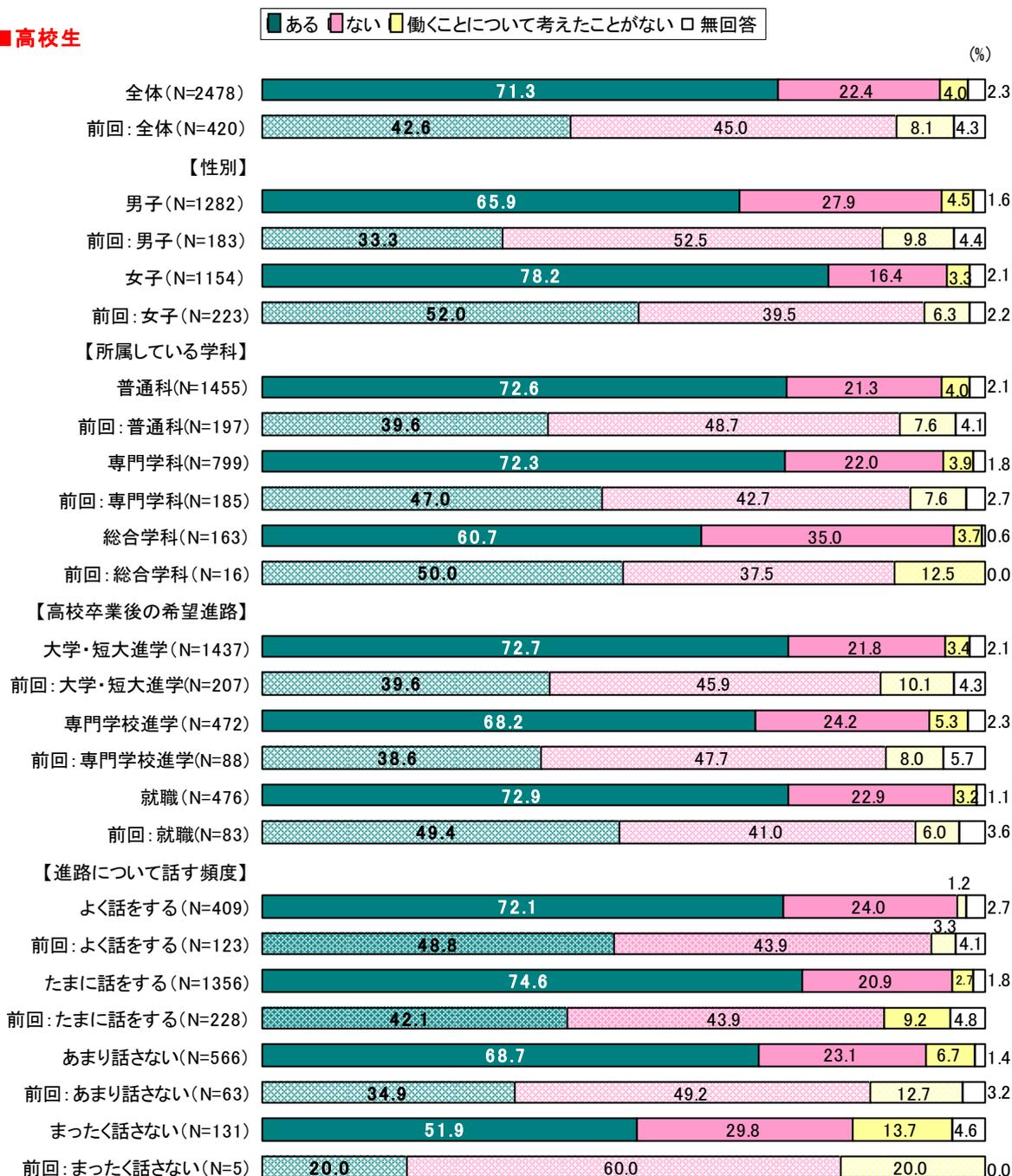
- 71%が「気がかりがある」と回答。前回 43%から大幅に増加
- 普通科、大短進学希望者に目立つ、気がかりの増加

生徒が将来働くことについて気がかりなことがあるか、まずは生徒の回答を見てみる。「気がかりがある」と回答した生徒は 71%で、前回の 43%から大幅な増加となった。とくに増加が著しいのは、普通科と大学・短大進学希望者だ。また、保護者と話している生徒ほど気がかりを感じている傾向が見られる。

保護者で「気がかりがある」は 61% (p.34 参照) で、保護者より生徒のほうが不安を抱える割合は高い。

Q. 将来働くことについて気がかりがあるか

■ 高校生



3. 働くことへの気がかり …②高校生:気がかりの中身

■ 70%が「なりたい職業に就くことができるか」を心配

気がかりの中身について聞くと、生徒の70%が「なりたい職業に就くことができるだろうか」を挙げた。そのほか「十分な収入が得られるだろうか」「職場の人間関係がうまくいだろうか」という心配も多い。

希望進路別に見ると、大短希望者は「なりたい職業に就くことができるだろうか」を挙げる割合が他の進路よりも大きく、進学のある就職への不安がうかがえる。また就職希望者は、「なりたい職業が思いつくだろうか」「自分にできる仕事があるだろうか」「仕事を覚えられるだろうか」の多さが目立った。

→次頁に続く

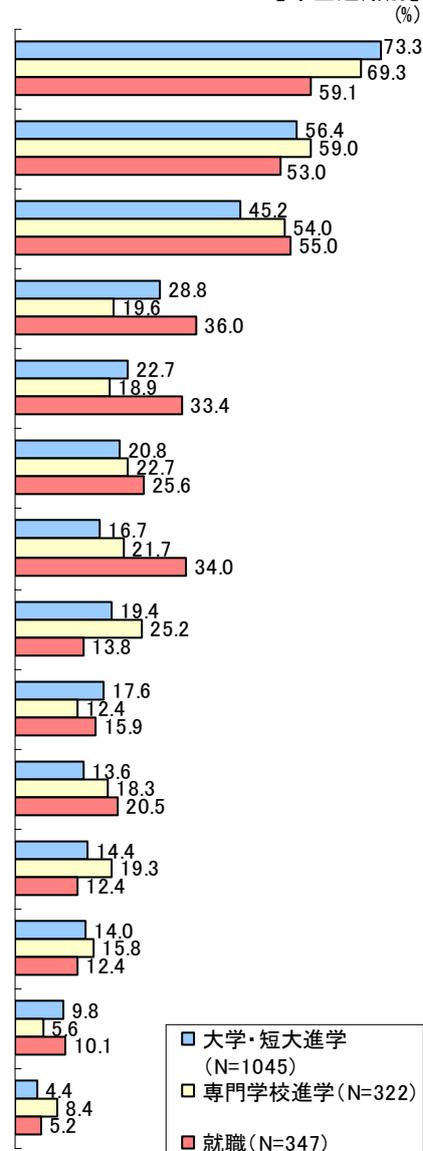
Q. 働くことについてどんなことが気がかりか(将来気がかりがある人・5つまで回答)…全体・性別・希望進路別

■ 高校生

【全体・性別】



【希望進路別】

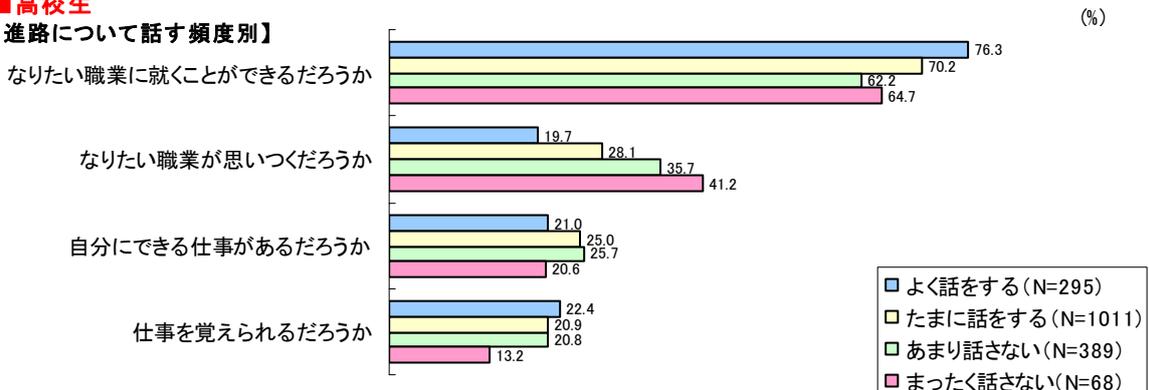


前頁で見た「働くことへの気かりの中身」のうち4項目を取り上げ、進路について保護者と話す頻度別、進路を考える時の気持ち別、未来社会観別に傾向を見てみる。まず、進路について話す頻度別で目立つのは、話さない人ほど「なりたい職業が思いつくだろうか」が多いことだ。次に進路を考える時の気持ち別では、「楽しい」人は「なりたい職業が思いつくだろうか」「自分にできる仕事があるだろうか」が他の気持ちの人よりも低い、「なりたい職業に就くことができるだろうか」はむしろ高かった。未来社会観別では、未来社会を好ましくないと思っている人ほど「なりたい職業に就くことができるだろうか」「自分にできる仕事があるだろうか」「仕事を覚えられるだろうか」を心配していた。

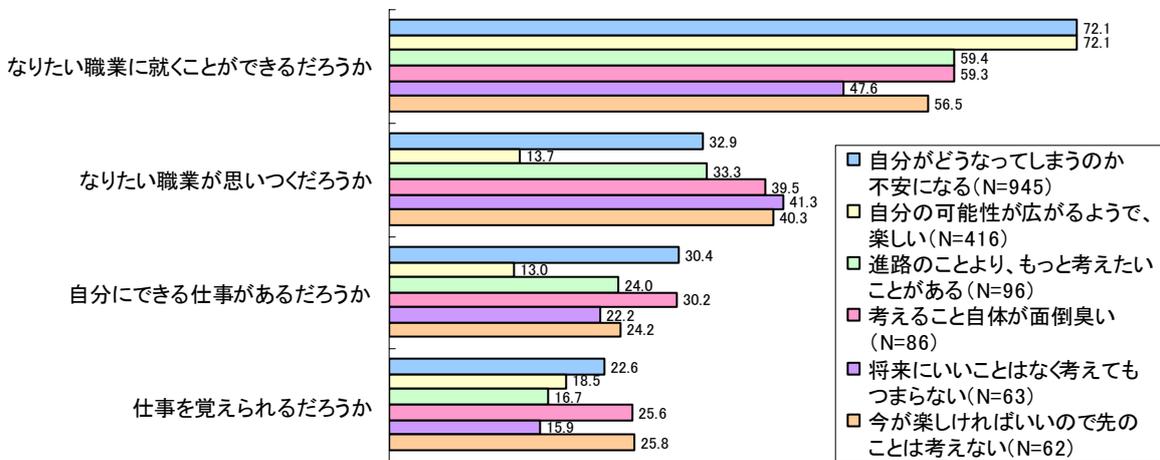
Q. 働くことについてどんなことが気がかりか(将来気がかりがある人・5つまで回答) …親子コミュニケーションや気持ち別

■高校生

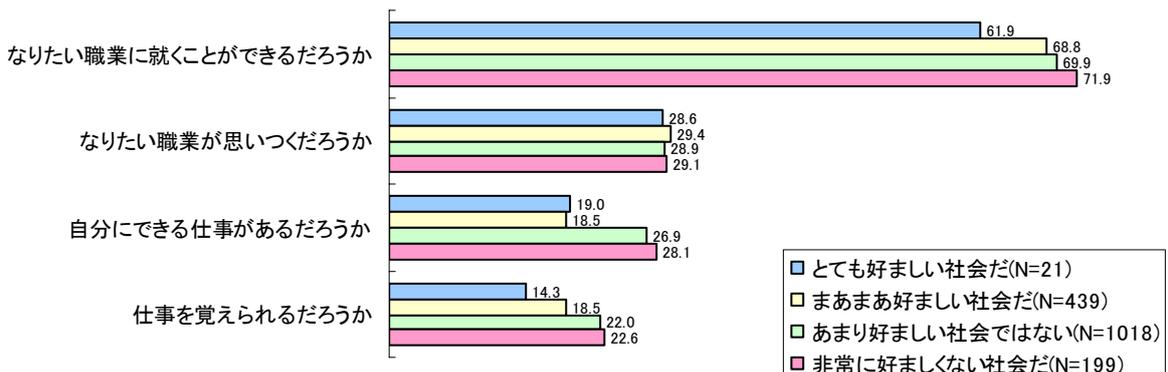
【進路について話す頻度別】



【進路を考える時の気持ち別】



【未来社会観別】

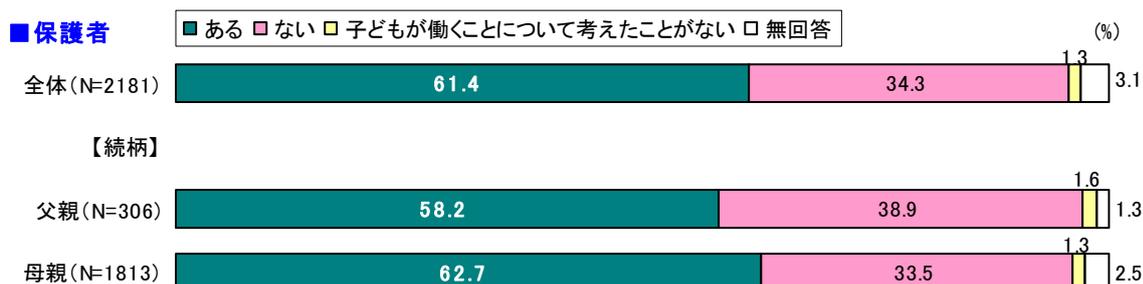


4. 働くことへの気がかり …③保護者

- 61%が「気がかりがある」と回答
- 81%が「なりたい職業に就くことができるか」を心配

子どもが将来働くことについて「気がかりがある」と回答した保護者は61%。気がかりの中身については81%が「なりたい職業に就くことができるだろうか」を挙げており、親子とも職業への移行について最も懸念しているようだ。また、「職場の人間関係がうまくいだろうか」「なりたい職業が思いつくだろうか」「歳をとっても働き続けられるだろうか」について、生徒よりも心配している。

Q. 子どもが将来働くことについて気がかりがあるか



Q. 子どもが働くことについてどんなことが気がかりか (将来気がかりがある人・5つまで回答)



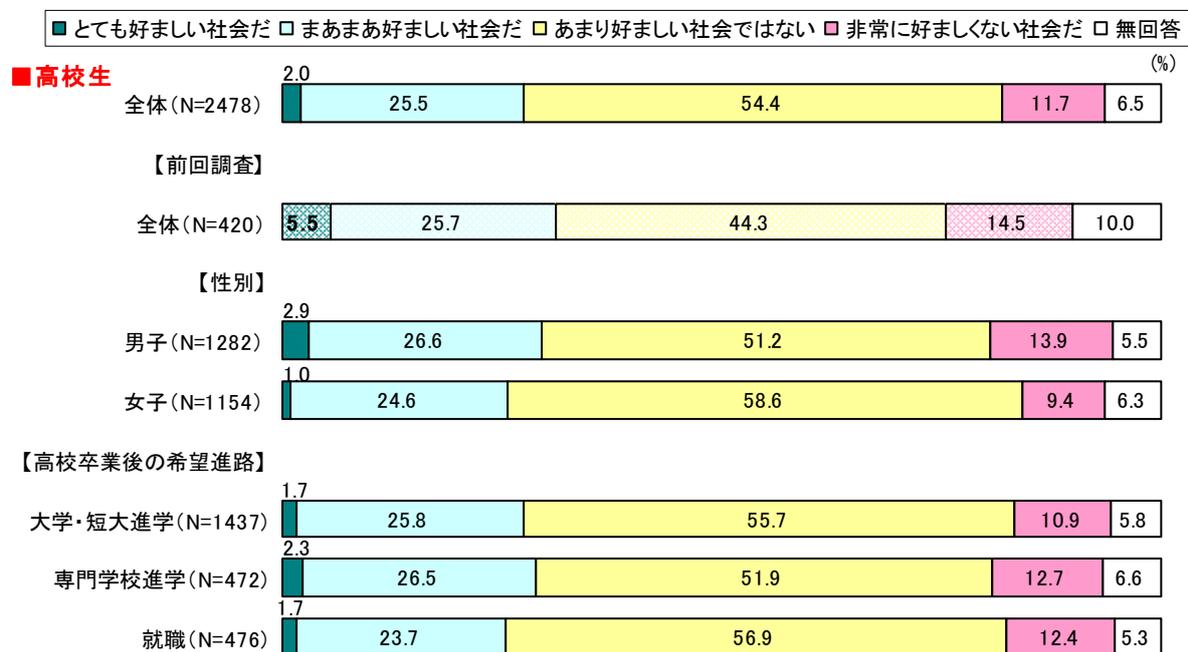
5. 未来社会への認識 …①高校生

- 「好ましくない」が前回調査の59%から66%に増加
- 就職難、少子化などが未来社会への考えに影を落とす

これからの社会に対する考えを親子それぞれに聞いた。まず生徒の回答を見ると、前回調査で31%だった「とても・まあまあ好ましい」が今回は28%に減少。「あまり好ましい社会ではない・非常に好ましくない社会だ」が59%から66%に増加した。

それぞれの回答の理由を見ると、好ましいと考える人には「頑張った人が得をする」「女性にとって働きやすい」など、努力や実力がものをいう社会を評価するコメントが目立つ。一方、好ましくないと考える人の理由には「就職難」「少子化」「夢がない」などの言葉が多く見られる。

Q. これからの社会は好ましいか



>> そう思う理由

■ とても好ましい

- 自らの能力をフルに生かせそうだから (山梨・男子、就職)
- いろんなバリエーションの職業があるから (岡山・女子、専門)

■ まあまあ好ましい

- 頑張った人が得をする社会なので、いいと思う (岡山・男子、就職)
- 女性にとっても働きやすい環境になってきているから (山梨・女子、大短)
- グローバル化していて、学びたい外国へも行けるところが素敵だと思う (東京・女子、大短)

■ あまり好ましくない

- 今の就職難は、商業高校を卒業する意味がないと思っている (青森・男子、大短)

- 頑張って働いても、リストラされたりするから (佐賀・女子、就職)

- 就職とか厳しいし、残業しても給料がもらえなかったりだから (北海道・女子、就職)

- 少子高齢化による税金の増加が未恐ろしい (東京・女子、大短)

■ 非常に好ましくない

- 自分の将来の夢がないし、高齢社会のため年金負担が膨大な額になる…などのさまざまな問題が予想されるから (大分・女子、大短)

- 腐敗していると言われる教育によって生み出される、学力低下した大人が大多数を占めるようになる社会でよくなるわけがないから (群馬・男子、大短)

6. 未来社会への認識 …②保護者

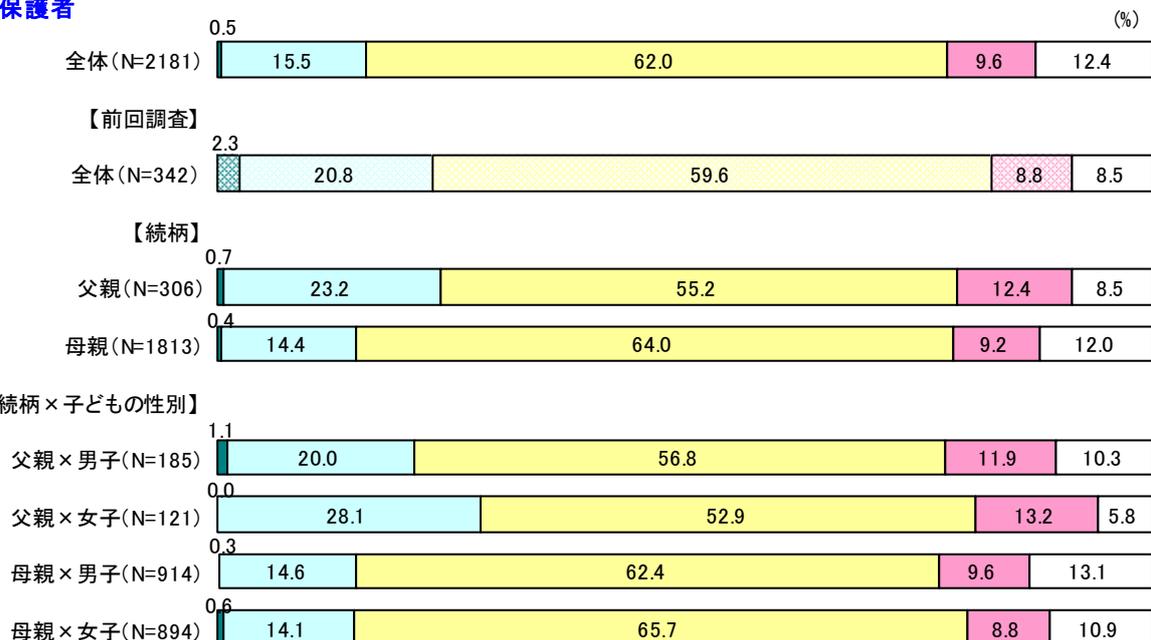
- 「好ましくない」が前回調査の68%から72%に増加
- 生徒・保護者ともに未来社会に対する見方は厳しくなっている

保護者の回答でも「とても・まあまあ好ましい」は前回 23%が今回 16%に、「あまり好ましい社会ではない・非常に好ましくない社会だ」は 68%が 72%になり、生徒・保護者ともに未来社会に対する見方は厳しくなっているといえそうだ。母親より父親が、また親子の組み合わせでは女子をもつ父親で「好ましい」回答がやや高かった。

Q. これからの社会は子どもにとって好ましいか

■ とても好ましい社会だ □ まあまあ好ましい社会だ □ あまり好ましい社会ではない □ 非常に好ましくない社会だ □ 無回答

■ 保護者



>> そう思う理由

■ まあまあ好ましい

- どんなことにも挑戦できるし、やり直すことに抵抗がない(大分・母親、女子)
- マイナス面もあるが、女性にとっては働きやすい社会になると思う(東京・父親、女子)
- 個人の能力次第で上に上がれるようになるので、努力しがいがある(大分・母親、男子)
- 苦労して勝ち取っていくのが向いている子なので、少々厳しい社会のほうが頑張ると思う(東京・母親、女子)

■ あまり好ましくない

- 難関大学へ入っても、就職が必ずあるわけではない(大分・母親、女子)
- どんどん高齢化が進んでいき、負担が若い人にくるばかりのような気がする。一生懸命働いても報われないのではなからうか(大分・母親、男子)

○ 社会で人を育てるゆとりがない。即戦力にはなれないのではないかと心配がある(東京・母親、女子)

○ 実力主義の社会だと思うので、子どもの性格からいって、人を蹴落としてまで上に登ろうとは思わないと思う(愛知・母親、女子)

○ 今は実力があっても、いつ弱者になって切り捨てられるかわからない不安さがある(群馬・母親、男子)

○ 頑張って勉強して、なりたい職業に就けても、人間関係が難しい時代だと思います。ストレスでうつ病になる人も多い(佐賀・母親、女子)

■ 非常に好ましくない

○ 個人主義ならまだしも、自己主義の世になってきているから(大分・父親、男子)

○ 親でさえ給料が少なくなる時代に不安を感じる(愛知・母親、女子)

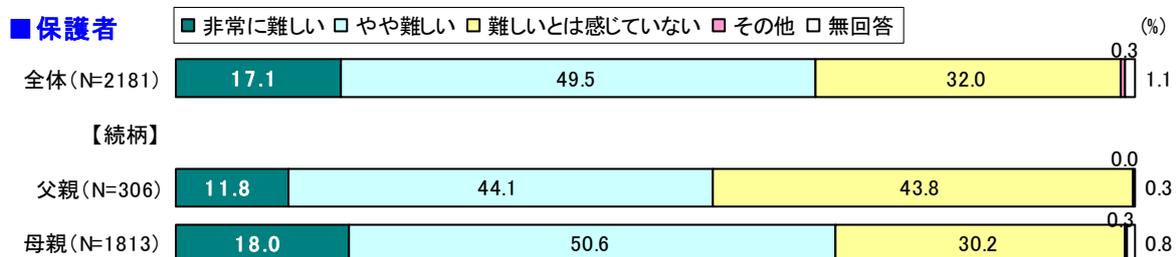
7. 保護者がアドバイスすることの困難

- 保護者の67%が「アドバイスが困難」と回答
- 「予測できない社会」「最新進路情報」が困難さの最大の要因

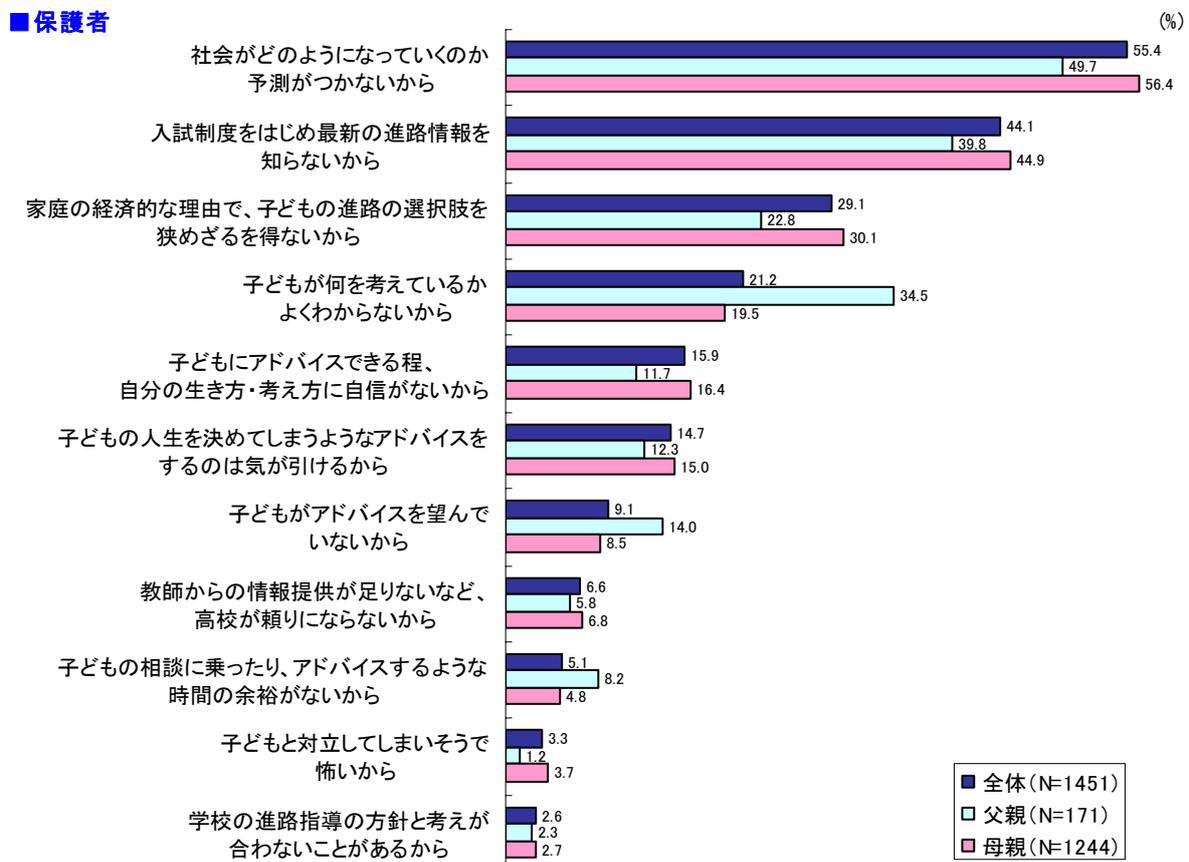
進路選択について子どもにアドバイスすることを、保護者の17%が「非常に難しい」と回答。「やや難しい」と合わせると67%で、多くの保護者が容易ではないと考えていることがわかった。父母を比べると、父親の56%、母親の69%が「非常に・やや難しい」と答えており、母親のほうが困難さを感じていた。

難しいと感じる要因について挙げてもらうと、「社会がどのように変わっていくのか予測がつかないから」が最も多く55%。「入試制度をはじめ最新の進路情報を知らないから」44%、「家庭の経済的な理由で、子どもの進路の選択肢を狭めざるを得ないから」29%も多い。父親の回答で目立つのが「子どもが何を考えているかよくわからないから」の多さで、母親の20%に対して父親は35%が挙げている。「子どもがアドバイスを望んでいないから」「時間の余裕がない」も母親より多めだ。

Q. 生徒の進路選択へのアドバイスを難しいと感じるか



Q. 進路選択のアドバイスが難しいと感じる要因は何か(複数回答)



VI. 学校への期待

1. 学校と家庭の役割に関する認識

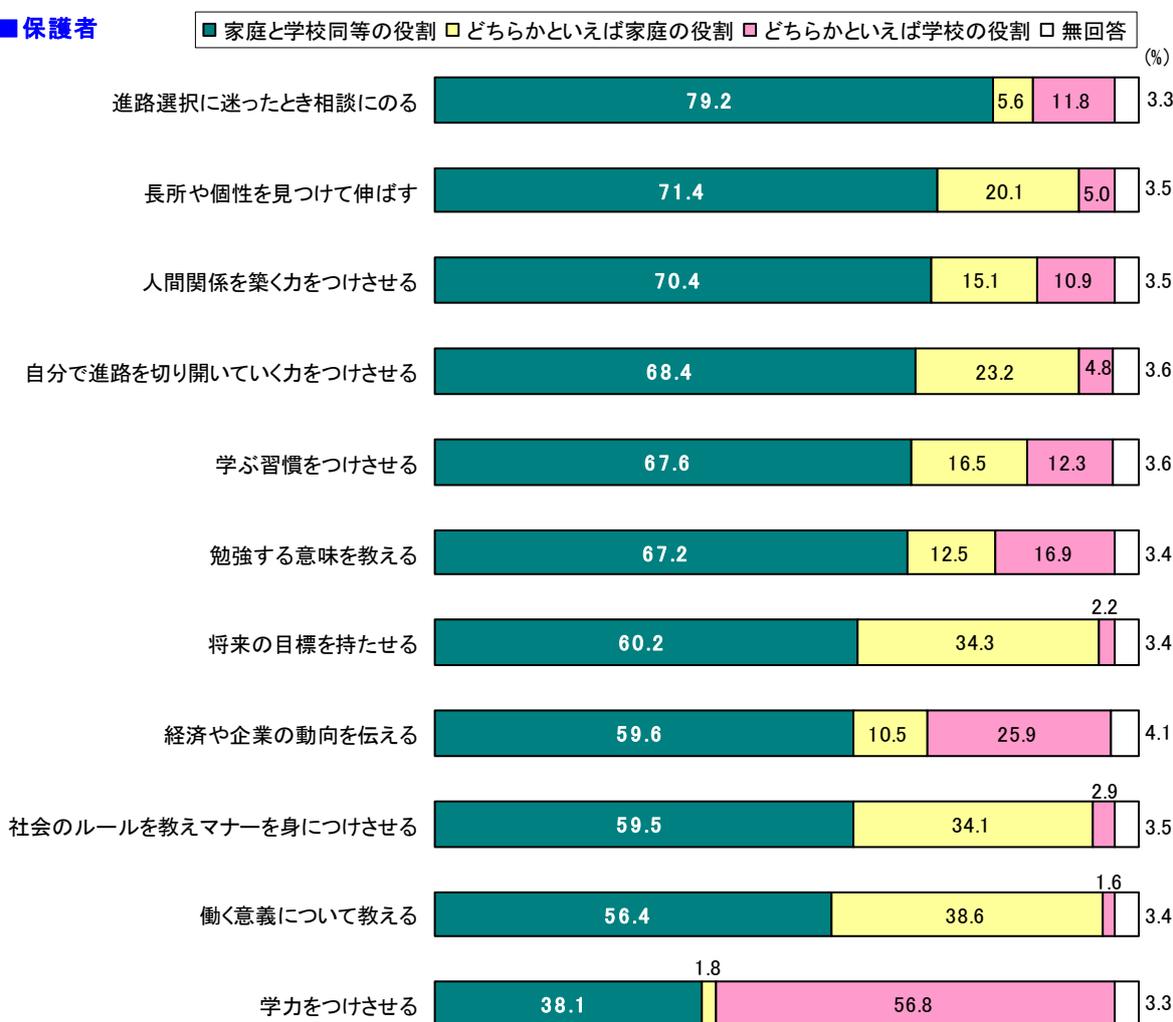
■ 保護者の79%が「進路の相談にのる役目は家庭と学校同等」と回答。協同の必要性を示唆

生徒に対する指導内容を11項目挙げ、それぞれ家庭と学校のどちらの役割だと思うかを保護者に聞いた。すると、ほとんどの項目で「家庭と学校同等の役割」という回答が過半数を占めた。どちらか一方の役割ではなく、家庭と学校が協同で指導にあたっていく必要を感じていることがうかがえる。

その中でも「どちらかといえば家庭の役割」の割合が高いのは「働く意義について教える」「将来の目標を持たせる」「社会のルールを教えマナーを身につけさせる」など。「どちらかといえば学校の役割」で目立つのは、「学力をつけさせる」「経済や企業の動向を伝える」「勉強する意味を教える」などだ。

Q. 生徒に次のことをするのはどちらの役割だと思うか

■ 保護者



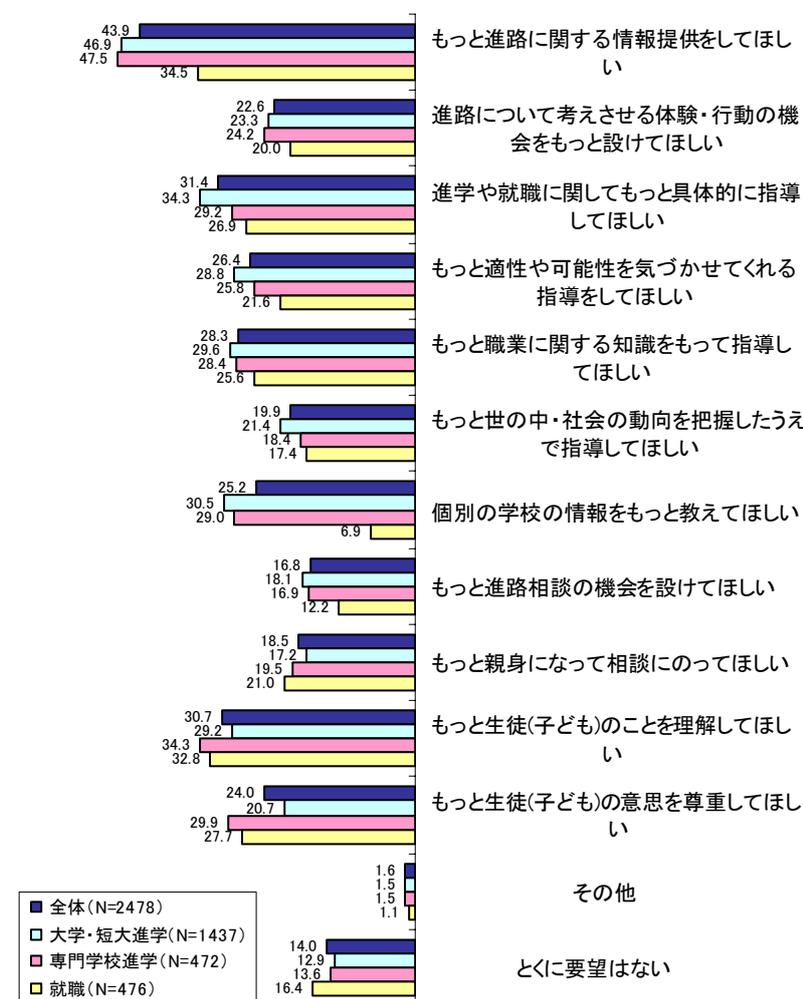
2. 進路指導への要望

- 高校生の44%、保護者の49%が「進路に関する情報提供」と回答
- 保護者は「体験・行動」の機会を強く要望

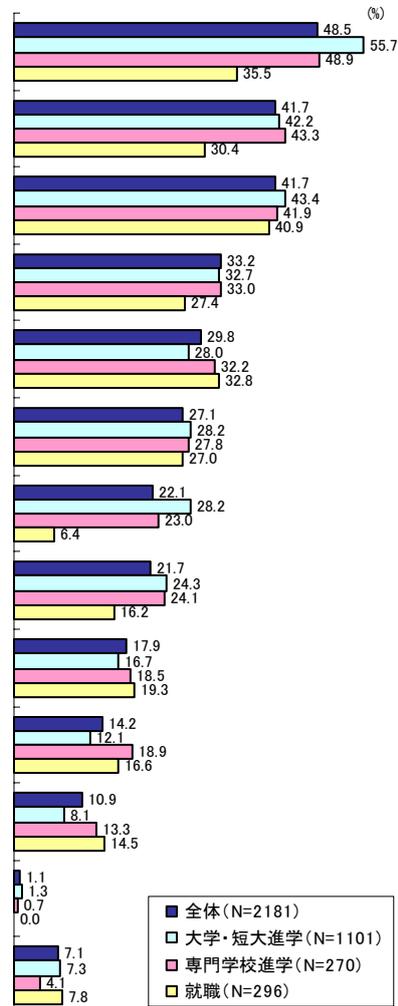
高校の進路指導に対する要望について生徒の回答を見ると、「もっと進路に関する情報提供をしてほしい」が最も多く44%。「進学や就職に関してもっと具体的に指導してほしい」も3割超と多い。保護者の要望でも生徒同様「進路に関する情報提供」がトップ。次いで42%の「進路について考えさせる体験・行動の機会をもっと設けてほしい」が目玉を引く。インターンシップなど体験的な学習を期待している保護者像が目玉に浮かぶ。希望進路別で差が大きいものを見ると、「進路に関する情報提供」「個別の学校の情報」への要望は、親子ともに特に進学希望者に、「生徒の理解」や「生徒の意思の尊重」は専門学校・就職希望者に高めた。「進学や就職の具体的な指導」「職業に関する知識」は進路にかかわらず要望している。

Q. 高校の進路指導にどのようなことを要望しているか(複数回答)

■ 高校生



■ 保護者



>> 学校や教師に対する不満や要望 (保護者コメント)

○家庭と学校との連携がない。学校で何をしているのかわからない(北海道・母親、男子) ○高校になると、親が先生と話す機会が極端に減るような気がします。もう少し話をする機会がほしいですね(大分・母親、男子) ○先生も、もう少し社会というものを知ってほしい。先生と話していると、まるで子どもと話をしているみたいだ(青森・父親、男子) ○子どもが行きたい大学は、高校としての実績がないから詳しくわからない、と言われた。有名な大学しか情報がないのはおかしいと思う(大分・母親、女子) ○インターネットなどが使える、いつでも誰でも入れる進路情報室があれば助かる(愛知・父親、男子) ○進路が決まらない、やりたいことがない者への指導の充実を(岡山・母親、女子)

▼本調査に関するお問い合わせは、下記までお願いします。

(株)リクルート

キャリアガイダンス編集長 角田浩子 TEL03-3575-6376

e-mail:career@r.recruit.co.jp

※出版・印刷物等へデータ転載する際には、“(社)全国高等学校PTA連合会・(株)リクルート調べ”と明記していただきますようお願い申し上げます。

※この調査結果については、キャリア教育専門誌「キャリアガイダンス No.12」(リクルート)にも掲載しています。